

2025（令和7）年度

# 事業報告書

（2025年4月1日から2026年3月31日まで）

学校法人 宮城学院



# 目次

<b>I. 学校法人の概要</b> .....	<b>- 1 -</b>
1. 基本情報.....	- 1 -
2. 法人の事業目的.....	- 1 -
3. 建学の精神.....	- 1 -
4. 設置する学校・学部・学科等.....	- 1 -
5. 宮城学院の沿革.....	- 2 -
6. 組織.....	- 4 -
7. 学部・学科等の入学定員、学生・生徒・園児在籍者数.....	- 5 -
8. 収容定員充足率.....	- 5 -
9. 役員の概要.....	- 6 -
10. 評議員の概要.....	- 8 -
11. 会計監査人の概要.....	- 8 -
12. 理事選任機関の概要.....	- 8 -
13. 教職員の概要.....	- 9 -
14. 所在地一覧.....	- 10 -
<b>II. 事業の概要</b> .....	<b>- 11 -</b>
1. 主な教育・研究の概要.....	- 11 -
<宮城学院女子大学・大学院に関する事項>.....	- 11 -
(1) 大学におけるキリスト教教育諸活動.....	- 12 -
(2) 教育・研究活動の充実.....	- 12 -
(3) 教育内容の充実に向けて.....	- 13 -
(4) 学生支援の充実.....	- 14 -
(5) 学生募集.....	- 17 -
(6) 社会連携 (MG-LAC 活動を含む).....	- 18 -
(7) 国際交流.....	- 18 -
(8) 生涯学習.....	- 19 -
(9) 大学院.....	- 19 -
(10) 大学後援会活動及び保護者等との連携.....	- 20 -
<宮城学院中学校高等学校に関する事項>.....	- 21 -
(1) 教育計画全般.....	- 21 -
(2) キリスト教教育活動.....	- 21 -
(3) 学習指導.....	- 22 -
(4) 海外研修・国際交流.....	- 23 -
(5) 生徒会指導、生活指導.....	- 23 -
(6) 進路指導.....	- 24 -
(7) 入試広報.....	- 24 -
(8) スクールバス.....	- 25 -
(9) その他.....	- 25 -

＜宮城学院女子大学附属認定こども園「森のこども園」に関する事項＞ .....	- 26 -
(1) 0～5歳児の保育 .....	- 26 -
(2) 食育 .....	- 26 -
(3) 子育て支援 .....	- 26 -
(4) 児童クラブ「森の家」 .....	- 27 -
＜宮城学院女子大学附属音楽教室に関する事項＞ .....	- 28 -
(1) 教育について .....	- 28 -
(2) 行事について .....	- 28 -
(3) 広報について .....	- 28 -
2. 中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況 .....	- 29 -
＜学院全体に関わる事業＞ .....	- 29 -
(1) キリスト教に基づく教育 .....	- 29 -
(2) 社会貢献 .....	- 29 -
(3) 本学院の社会的使命を果たすための基盤整備 .....	- 29 -
(4) 同窓会との連携 .....	- 31 -
(5) その他 .....	- 31 -
＜キリスト教センターに関する事項＞ .....	- 33 -
＜資料室に関する事項＞ .....	- 34 -
(1) 資料の整理・保管、調査・研究及び情報の提供・公開 .....	- 34 -
(2) その他 .....	- 34 -
<b>III. 財務の概要</b> .....	<b>- 35 -</b>
<b>IV. 内部統制システムの整備及び運用状況の概要</b> .....	<b>- 43 -</b>
<b>V. 資料</b> .....	<b>- 44 -</b>
1. 理事会、評議員会の開催状況 .....	- 44 -
(1) 理事会の開催状況 .....	- 44 -
(2) 常任理事会の開催状況 .....	- 45 -
(3) 評議員会の開催状況 .....	- 49 -
2. 法人、大学、中学校高等学校及びこども園の主要な行事等 .....	- 50 -
(1) 法人（理事会・評議員会を除く） .....	- 50 -
(2) 大学院・大学 .....	- 51 -
(3) 中学校高等学校 .....	- 52 -
(4) 大学附属認定こども園「森のこども園」 .....	- 54 -
3. 補助金の状況 .....	- 56 -
4. 入学志願者、合格者、入学者数 .....	- 61 -
5. 寮生数 .....	- 61 -
6. 2025年度就職内定状況 .....	- 62 -
<b>事業報告書附属明細書</b> .....	<b>- 63 -</b>

# I. 学校法人の概要

## 1. 基本情報

法人名 学校法人宮城学院  
住所 〒981-8557 宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘九丁目1番1号  
電話/FAX番号 022-279-1311/022-279-4667  
ホームページURL <https://www.mgu.ac.jp/home/>

## 2. 法人の事業目的

寄附行為第3条において、「学校法人宮城学院は、福音主義のキリスト教に基づき、教育基本法及び学校教育法に従い、女子及び幼児に学校教育を行うことを目的とする。」と定め、大学院、大学、高等学校、中学校、認定こども園及びその他の教育研究施設を設置し、女子の初等・中等教育及び高等教育を担い、広く社会に有能な人材を育成することを目的としている。

## 3. 建学の精神

「福音主義キリスト教に基づいて学校教育を行い、神を畏れ敬い、自由かつ謙虚に真理を探究し、隣人愛に立ってすべての人の人格を尊重し、人類の福祉と世界の平和に貢献する女性を育成すること」

## 4. 設置する学校・学部・学科等

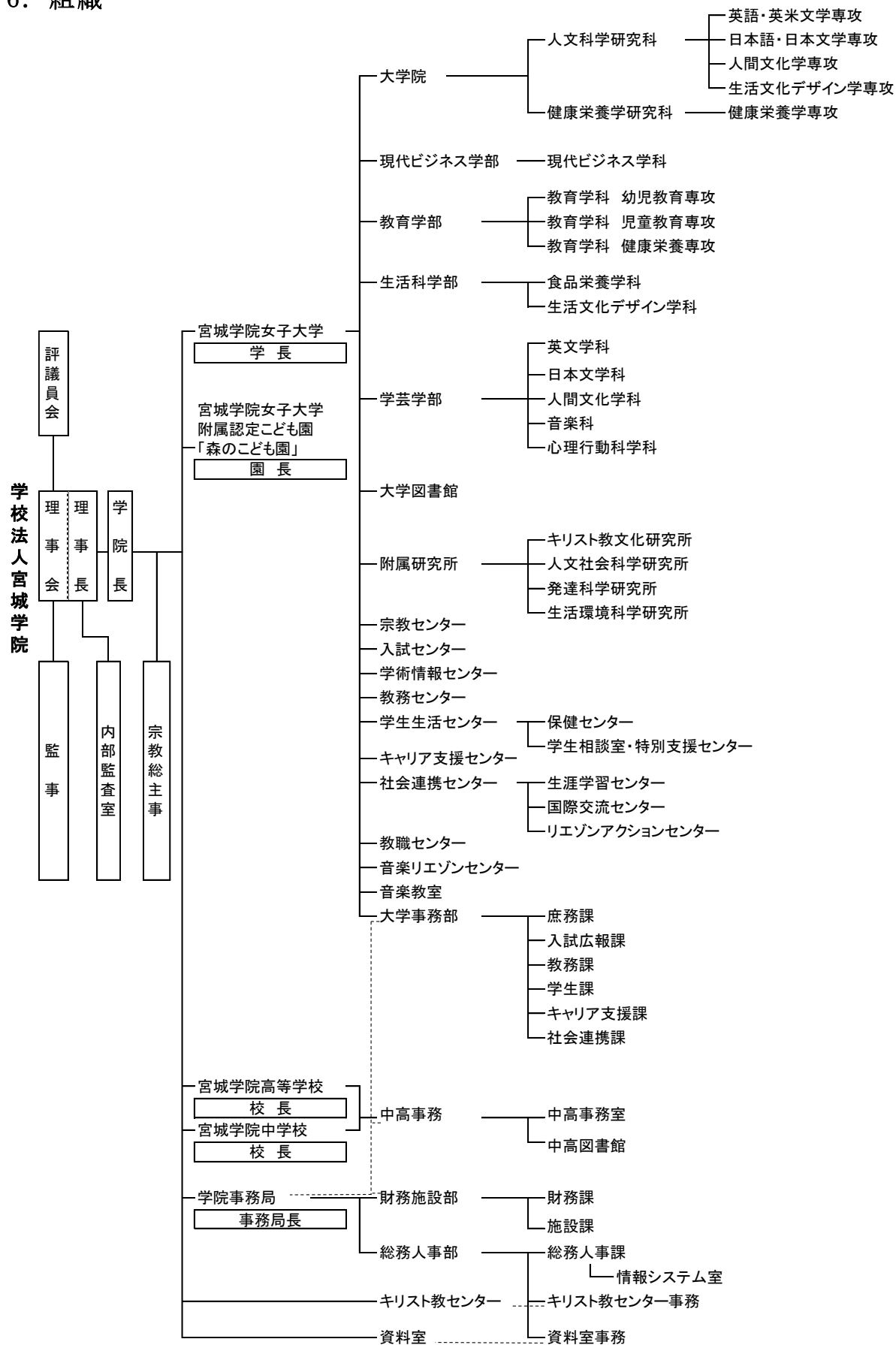
設置する学校	設置年	学部・学科等
宮城学院女子大学	1949年	大学院 人文科学研究科 健康栄養学研究科 現代ビジネス学部 現代ビジネス学科 教育学部 教育学科 生活科学部 食品栄養学科 生活文化デザイン学科 学芸学部 英文学科 日本文学科 人間文化学科 音楽科 心理行動科学科
宮城学院高等学校	1948年	全日制課程 普通科
宮城学院中学校	1947年	
宮城学院女子大学附属認定こども園 「森のこども園」	2016年	

## 5. 宮城学院の沿革

- 1886年 押川方義、ウイリアム・E・ホーイが中心となり宮城女学校創立  
初代校長にエリザベス・R・プールボー就任
- 1889年 東三番丁 162 番地に竣工した新校舎に移転
- 1900年 1 年制聖書専攻科設置
- 1910年 校旗・校章制定
- 1911年 高等女学校に準ずる学校となる
- 1912年 3 年制家政専攻科設置
- 1913年 3 年制英文専攻科設置
- 1914年 理事会組織の発足と寄附行為（the Constitution）の制定
- 1916年 3 年制音楽専攻科設置、2 年制聖書専攻科設置
- 1931年 音楽科に師範科及び研究科を設置
- 1941年 財団法人宮城女学校設立
- 1943年 宮城女学校を廃止、宮城高等女学校設置、専攻部を専攻科と改称
- 1946年 学則改正によりキリスト教主義学校へ復す。専門学校令により宮城学院女子専門学校  
設置（育児科、国語科、外国（英）語科、音楽科）
- 1947年 新学制により宮城学院中学校設置
- 1948年 新学制により宮城学院高等学校設置
- 1949年 宮城学院女子大学設置（学芸学部英文学科、音楽科）
- 1950年 宮城学院女子短期大学設置（家政科、国文科）
- 1951年 学校法人宮城学院設立認可
- 1955年 宮城学院女子短期大学保育科設置
- 1956年 宮城学院女子短期大学附属幼稚園設置
- 1959年 大学学芸学部家政学科を設置
- 1964年 大学学芸学部日本文学科、短期大学に教養科を設置
- 1980年 東二番丁から現在地である桜ヶ丘へ総合移転
- 1986年 創立 100 周年
- 1988年 短期大学に国際文化科を設置
- 1995年 大学学芸学部人間文化学科を設置、大学院人文科学研究科を設置（英語・英米文学  
専攻、日本語・日本文学専攻）
- 1999年 大学院人文科学研究科人間文化学専攻を設置
- 2000年 大学学芸学部食品栄養学科、生活文化学科、発達臨床学科、国際文化学科を設置
- 2001年 宮城学院女子短期大学廃止
- 2005年 大学院人文科学研究科生活文化デザイン専攻を設置
- 2006年 創立 120 周年（礼拝堂増築）  
高校コース制導入
- 2007年 大学学芸学部心理行動科学科、児童教育学科を設置
- 2008年 大学院健康栄養学研究科健康栄養学専攻を設置
- 2009年 大学院人文科学研究科生活文化デザイン専攻及び大学学芸学部生活文化学科の名称  
を大学院人文科学研究科生活文化デザイン学専攻及び大学学芸学部生活文化デザ  
イン学科に変更
- 2016年 創立 130 周年  
大学現代ビジネス学部現代ビジネス学科、教育学部教育学科、生活科学部食品栄養学  
科、生活文化デザイン学科設置

大学附属幼稚園廃止  
大学附属認定こども園「森のこども園」設置  
2019年 大学設置 70周年  
大学学芸学部児童教育学科廃止  
2020年 大学学芸学部発達臨床学科廃止  
2021年 大学学芸学部食品栄養学科廃止  
大学学芸学部生活文化デザイン学科廃止  
2022年 大学学芸学部国際文化学科廃止

## 6. 組織



## 7. 学部・学科等の入学定員、学生・生徒・園児在籍者数

(2025年5月1日現在)

				入学 定員	学生・生徒・園児数					収容 定員	定員比
					1年	2年	3年	4年	合計		
大 学 院 課 程	人文科学研究科	英語・英米文学専攻	4	2	1			3	8	0.38	
		日本語・日本文学専攻	4	0	0			0	8	0.00	
		人間文化学専攻	4	0	0			0	8	0.00	
		生活文化デザイン学専攻	4	0	1			1	8	0.13	
	健康栄養学研究科	健康栄養学専攻	4	4	2			6	8	0.75	
大学院合計				20	6	4		10	40	0.25	
大 学	現代ビジネス学部	現代ビジネス学科	95	105	82	106	105	398	380	1.05	
	教育学部	教育学科幼児教育専攻	90	69	76	82	102	329	360	0.91	
		教育学科児童教育専攻	50	40	39	42	63	184	200	0.92	
		教育学科健康教育専攻	50	54	50	47	42	193	140	1.38	
	生活科学部	食品栄養学科	100	110	111	106	107	434	400	1.09	
		生活文化デザイン学科	60	29	42	72	59	202	240	0.84	
	学芸学部	日本文学科	100	89	79	113	95	376	400	0.94	
		英文学科	70	44	50	43	61	198	280	0.70	
		人間文化学科	35	35	61	39	52	187	245	0.76	
		心理行動科学科	80	91	96	83	75	345	260	1.33	
音楽科		20	14	15	16	14	59	95	0.62		
大学合計				750	680	701	749	775	2905	3000	0.97
大学院・大学合計				770	686	705	749	775	2915	3040	0.96
高等学校				260	105	100	102		307	780	0.39
中学校				160	30	33	39		102	480	0.21
認定こども園				定員	未満児	3歳	4歳	5歳	111	120	0.93
				120	25	28	28	30			
総合計					846	866	918	805	3435	4420	0.78

## 8. 収容定員充足率

(毎年度5月1日現在)

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
大学院	0.25	0.30	0.33	0.28	0.25
大学	1.08	1.08	1.03	0.98	0.97
高等学校	0.47	0.44	0.42	0.41	0.39
中学校	0.34	0.30	0.27	0.23	0.21
認定こども園	1.08	1.07	0.98	0.98	0.78

## 9. 役員の概要

定数 理事 12～13 名、監事 2 名（2026 年 3 月 31 日現在）

理事・監事の別	氏名	就任年月日	常勤・非常勤の別	業務執行・非業務執行の別	主な現職等
理事長	佐々木 哲夫	2025 年 5 月 27 日	常勤	業務執行	(学)宮城学院 理事長・学院長
理事	長谷部 弘	2025 年 5 月 27 日	常勤	非業務執行	宮城学院女子大学学 長
理事	平 林 健	2025 年 5 月 27 日	常勤	非業務執行	宮城学院中学校高等 学校校長
理事	大 内 典	2025 年 5 月 27 日	常勤	非業務執行	宮城学院女子大学副 学長
理事	深 澤 昌 夫	2025 年 5 月 27 日	常勤	非業務執行	宮城学院女子大学副 学長
理事	本 田 辰 雄	2025 年 5 月 27 日	常勤	業務執行	(学)宮城学院 事務局長・常務理事
理事	色 川 幸 子	2025 年 5 月 27 日	非常勤	非業務執行	宮城学院同窓会 会長
理事	瀬 谷 寛	2025 年 5 月 27 日	非常勤	非業務執行	日本基督教団 東一番丁教会牧師
理事	佐久間 敬 子	2025 年 5 月 27 日	非常勤	非業務執行	弁護士
理事	大 泉 一 貫	2025 年 5 月 27 日	非常勤	非業務執行	
理事	藤 沢 智 子	2025 年 5 月 27 日	非常勤	非業務執行	
理事	佐 藤 勝 博	2025 年 5 月 27 日	非常勤	非業務執行	
監 事	武 田 雅 比 人	2025 年 5 月 27 日	非常勤	非業務執行	公認会計士
監 事	鈴 木 和 彦	2025 年 5 月 27 日	非常勤	非業務執行	

## 責任免除・責任限定契約、補償契約・役員賠償責任保険契約について

### 責任の免除

寄附行為第 22 条において、役員の実任の免除を次のとおり規定しています。

第 22 条 役員が任務を怠ったことによって生じた損害について本法人に対し賠償する責任は、職務を行うことにつき善意でかつ重大な過失がなく、その原因や職務執行状況などの事情を勘案して特に必要と認める場合には、役員が賠償の責任を負う額から私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額を控除して得た額を限度として理事会の議決によって免除することができる。

### 責任限定契約

寄附行為第 23 条において、役員の実任限定契約を次のとおり規定しています。本学院では本寄附行為に基づき、非業務執行理事及び監事に対しては、責任限定契約を締結しています。

第 23 条 理事（理事長、常務理事、業務を執行したその他の理事又は本法人の職員でないものに限る。）又は監事（以下この条において「非業務執行理事等」という。）が任務を怠ったことによって生じた損害について本法人に対し賠償する責任は、当該非業務執行理事等が職務を行うことにつき善意でかつ重大な過失がないときは、金 50 万円以上であらかじめ定めた額と私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額を限度とする旨の契約を非業務執行理事等と締結することができる。

### 補償契約

本学院では、役員の実任執行の過度な萎縮を防ぐ観点から、役員がその職務執行に関し負う損害賠償責任に係る費用等を学校法人が役員に対して補償する契約、いわゆる「補償契約」を結んでいます。

### 役員賠償責任保険契約

本学院では、役員の実任執行の過度な萎縮を防ぐ観点から、役員がその職務執行に関し負う損害賠償責任に係る費用等を填補する責任保険契約で学校法人が保険者との間で役員を被保険者として締結するものいわゆる「役員賠償責任保険契約」を結んでいます。

< 契約内容 >

契約当事者：学校法人宮城学院、東京海上日動火災保険株式会社

保険期間：2025 年 4 月 1 日午後 4 時から 2026 年 4 月 1 日午後 4 時まで

被保険者（補償の対象となる者）の範囲：

【個人被保険者】役員（理事、監事）、退任役員

【記名法人】学校法人宮城学院

補償内容：役員としての業務の遂行に起因して、保険期間中に損害賠償がなされたことによって被る損害を、保険期間中の総支払限度額の範囲内で支払う保険。

支払限度額：15 億円。

## 10. 評議員の概要

定数 14 名 (2026 年 3 月 31 日現在)

氏 名	就任年月日	主な現職等
こはだ せいじ 小羽田 誠 治	2025 年 5 月 27 日	宮城学院女子大学教授
えん どうじゅん 遠 藤 純 子	2025 年 5 月 27 日	宮城学院中学校高等学校教頭
わた べ しんたろう 渡 部 伸太郎	2025 年 5 月 27 日	(学)宮城学院 総務人事部長
やま ぐち かつや 山 口 勝 也	2025 年 5 月 27 日	(学)宮城学院 財務施設部長
うつ みさち 内 海 祥 子	2025 年 5 月 27 日	
ど もん ひろこ 土 門 比呂子	2025 年 5 月 27 日	
か の みちこ 鹿 野 みち子	2025 年 5 月 27 日	
ひら か まりこ 平 賀 真理子	2025 年 5 月 27 日	(学)宮城学院 宗教主事
なか もと じゅん 中 本 純	2025 年 5 月 27 日	日本基督教団 仙台東六番丁教会牧師
すが わら ひろのり 菅 原 裕 典	2025 年 5 月 27 日	(株)清月記代表取締役
たか はし ひろし 高 橋 博	2025 年 5 月 27 日	タクシーチケット(株) 専務執行役員
さい とう きみこ 齋 藤 公 子	2025 年 5 月 27 日	
しろ き えつこ 白 木 悦 子	2025 年 5 月 27 日	
なが やま ゆ み 永 山 ゆ み	2025 年 5 月 27 日	(株)河北新報社 取締役広告担当・営業局長

## 11. 会計監査人の概要

定数 1~2 名 (2026 年 3 月 31 日現在)

氏 名	就任年月日	主な現職等
き とう しげる 佐 藤 茂	2025 年 5 月 27 日	公認会計士

## 12. 理事選任機関の概要

本学院の理事選任機関は、全ての理事によって構成されている。

### 13. 教職員の概要

教職員数

(2025年5月1日現在)

区分		教育職員	教務職員※ <sup>10</sup>	事務職員	合計
法人	本務			10 ※ <sup>1</sup>	10
	兼務			1	1
大学	本務	102 ※ <sup>2</sup>	26 ※ <sup>3</sup>	42 ※ <sup>4</sup>	170
	兼務	317	11	6	334
高等学校	本務	27 ※ <sup>5</sup>		2	29
	兼務	12		3	15
中学校	本務	16 ※ <sup>6</sup>	1 ※ <sup>7</sup>	2	19
	兼務	4			4
認定こども園	本務	18 ※ <sup>8</sup>		1 ※ <sup>9</sup>	19
	兼務	2		6 ※ <sup>11</sup>	8
小計	本務	163	27	57	247
	兼務	335	11	16	362
合計		498	38	73	609

※1 事務嘱託職員1名を含む。

※2 特任教員・特命教員32名を含む。

※3 教務嘱託職員、コーディネーター計15名を含む。

※4 専門職嘱託職員、事務嘱託職員6名を含む。

※5 養護教諭(専任)1名及び契約教員5名を含む。

※6 契約教員4名を含む。

※7 教務嘱託職員1名。

※8 嘱託保育教諭6名を含む。

※9 管理栄養士1名。

※10 教務職員とは大学は副手・助手、中学校高等学校では実習助手及び教務嘱託職員を指す。

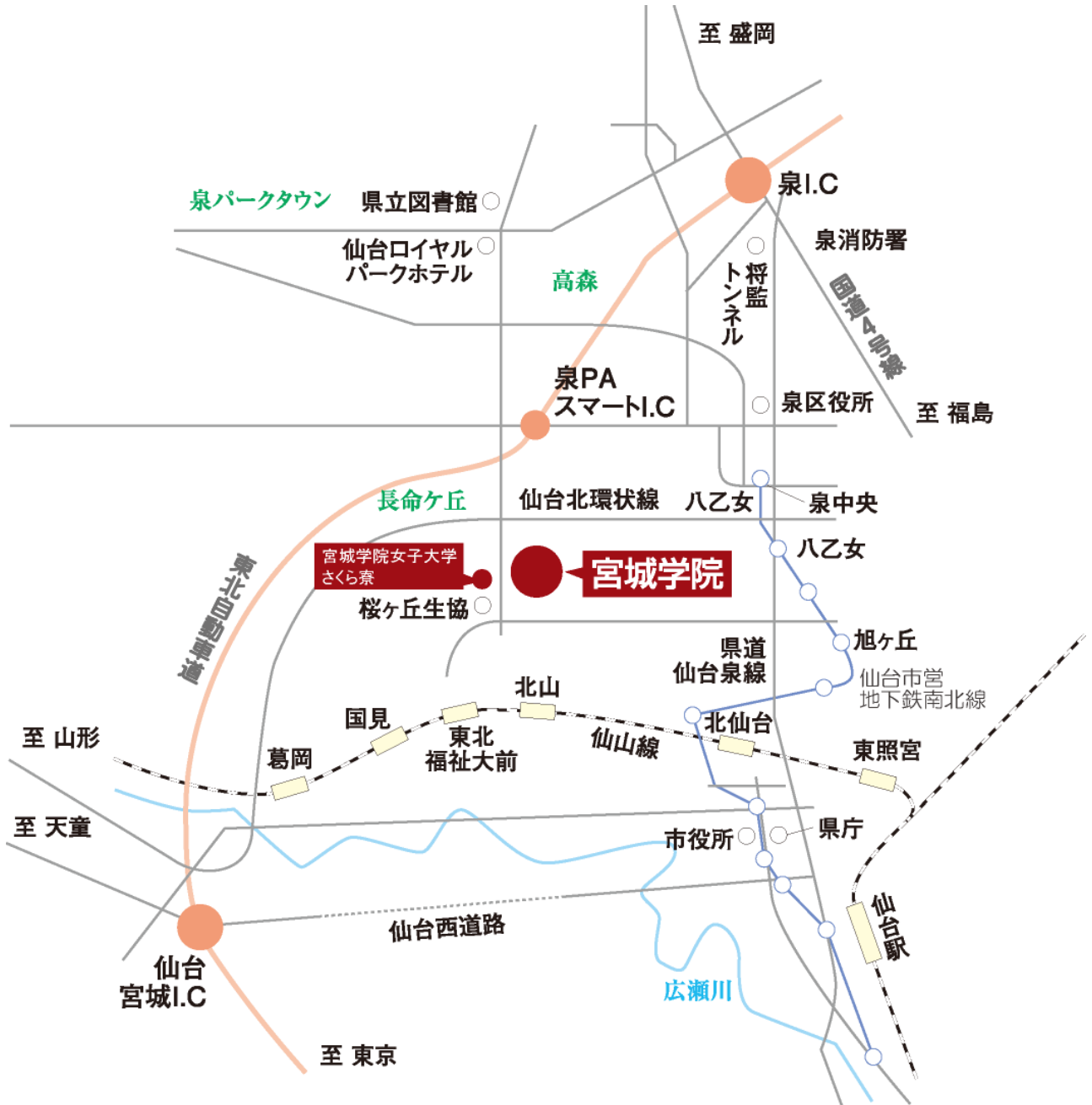
※11 調理員3名及びシルバーパート2名を含む。

教職員の平均年齢

区分	教育職員	教務職員	事務職員	全体
本務	51.15歳	39.37歳	44.67歳	48.37歳
兼務	54.95歳	42.00歳	47.38歳	54.22歳
合計	53.70歳	40.13歳	45.26歳	51.85歳

## 14. 所在地一覧

学校法人宮城学院	仙台市青葉区桜ヶ丘九丁目 1-1
宮城学院女子大学	同 上
宮城学院高等学校	同 上
宮城学院中学校	同 上
宮城学院女子大学附属認定こども園「森のこども園」	同 上



## II. 事業の概要

### 1. 主な教育・研究の概要

#### <宮城学院女子大学・大学院に関する事項>

2024年度に作成した点検・評価報告書を基に、2025年度に大学基準協会の認証評価を受審しました。基準協会からは一部改善課題も指摘されましたが、適合判定をいただきました。指摘事項として、大学院における学修成果の把握・評価が不十分であること、また一部の研究科や学科において定員管理に問題があること（定員超過や未充足）などがあげられました。評価すべき特長としては、全学共通科目 MGU スタンダードの中で「女性と人権」を扱うなど、東北地方で数少ない女子大学として長い人生を見据えた女性の生き方を考える教育が持続的に行われていること、またジェンダー教育研究センターを設置して社会での問題解決に取り組み始めていること、これらが社会に出る若い女性たちをエンカレッジしている点などが評価されました。今後も「愛のある知性を。」のタグラインを前面に押し出して本学の存在意義をアピールしていきます。

大学教員に対しては9月の創立記念日に合わせて建学の精神研修会を実施しました。その甲斐あって、教職員礼拝への出席者数は現行大学中期計画の目標を達成しましたが、学生主体の大学礼拝については、なお参加者を増やすために更なる工夫が必要であると考えています。

カリキュラムについては、教育学科児童教育専攻、生活文化デザイン学科、日本文学科、心理行動科学科の4学科でカリキュラムの厳選、スリム化を行いました。その他の学科は学部・学科改組の観点から検討が行われています。

そのなかに、キリスト教教育と女性学を二大支柱とする教養教育をコアとした一般教育の充実及び学科の関連カリキュラムの高度化を図ることを組み込む計画でしたが、これについては一般教育そのものの見直しとも連動するため、十分に進めることはできませんでした。しかし、女性学に関する教育の核となるジェンダー教育研究センターについては、10月に杜けあき氏をお招きし、大々的なキックオフイベントを開催しました。今後、ジェンダーカフェやリカレント教育等、積極的かつ多彩な活動を展開していく予定です。

大学改革は、文部科学省において英文学科の英語文化コミュニケーション学科への改組が認められ、2025年度に学生募集を行ったところ、ほぼ定員に近いところまで学生を集めることができました。現代ビジネス学部で観光系新学科を設置する構想は、当面現代ビジネス学科の観光・文化構想コースで実績を積み重ねることとし、あわせて人間文化学科のカリキュラム改革に取り組むこととしました。その他、教育学部の改革案も検討にも着手しました。2026年度はコンサルタントを交えて検討作業を継続します。そのために、2026年度以降、大学改革を主導する委員会として「改革検討委員会」を常設します。

人事運営については、ポイント制による中期計画にのっとり進め、ほぼ計画どおりに新規採用者を得ることができました。今後は、教育研究及び種々の学内運営業務をより円滑に進めるために、専任教員を中心にした教員組織を構築する必要があり、そのために、基幹教員制度を活用しながら中期人事計画を調整していきます。

一般的な学生相談や特別支援に関する相談など学生生活面の支援活動は活発に行われています。他方、教務部主導で始まった「よろず学修相談」はまだ学生への周知が十分とはいえないため、2026年度以降、広報につとめるとともに、学修支援の充実に努めます。

2025年度は、二号基金をもとにしたキャンパス整備事業の一環として、大学図書館のブラウジングルームと講義館4階の普通教室2室、計3室をラーニング・コモンズに改修しました。アクティブ・ラーニングやグループワーク等、学生たちが自主的・主体的に学修することのできる自由で開かれたスペースとして活用されていくものと期待します。また、長年の課題であったトイレ環境の整備・改修（アメニティの質的向上）は2025年度に設計を行い、2026年度から2か年計画で工事を実施する

予定で準備が進められています。その他、大学図書館 1 階の空調設備更新、情報教室の PC 更新、一部情報教室の普通教室への改修等、教育環境の整備を行いました。

2025 年度の地域連携活動は「少子化時代を支える新たな私立大学等の経営改革支援・キラリと光る教育力」補助金（2024 年度採択）を受け、東松島市や郡山市と連携活動を進めているほか、宮城県内の観光業界や観光振興団体等とともに観光・ツーリズム振興等をテーマにしたシンポジウムや公開研究会を開催しました。その他、企業等との連携活動として 13 件の商品開発等を行いました。

最後に、大変遺憾なことでありますが、今年度も教員によるセクシュアルハラスメント事案及びストーカー規制法違反事案が発生しました。大学としては、改めて「学生指導に関する留意事項」（2026 年 4 月改訂版）の周知を図るとともに、セクハラ・アカハラ等、ハラスメントを防止するための研修会を年に二度行うなどして綱紀粛正と教員の意識改革に努めます。

## （1）大学におけるキリスト教教育諸活動

### ア 教育活動全般

「キリスト教学」では本学の研究教育の基盤となるキリスト教の基礎知識と、それを基盤とした思考により自己肯定と他者との共生を学生たちが身に付けていく授業展開を実施しました。「キリスト教と現代社会」及び「キリスト教教育論」においては、キリスト教の視点から、現代社会の諸課題とそれに対する対応を提示するとともに、自ら考えて課題に取り組むこと、社会でのキャリアと生きることにつながる授業内容を展開しました。

### イ キリスト教教育活動

週 3 回の対面による定期礼拝（原則として月・水・金の 12 時 10 分～12 時 30 分）は、学内キリスト者、近隣キリスト教会牧師及びキリスト教高校クリスチャン教師が説教を担当しました。学生の礼拝レポートは数量的には授業履修者の大半が提出しましたが、内容深化について課題を残しています。金曜日の大学礼拝では音楽科学生による奏楽奉仕が実施されました。

キリスト教教育特別集会は、SDGs を積極的に促進している青山学院大学のシュー土戸ポール文学部教授（前副院長）を講師として、予定どおり実施しました。出席学生からの積極的な質問も提出されました。年度末に大学礼拝説教及びキリスト教教育特別集会の講演を収録した『あかり』を公刊しました。

特別礼拝として、大学クリスマス礼拝では日本キリスト教会仙台黒松教会の中家契介牧師による説教と聖歌隊・ハンドベルクワイアの音楽演奏により礼拝をささげました。卒業礼拝では、小友聡牧師（日本基督教団牧師・日本旧約学会会長）を説教者として迎えました。また、さくら寮での夕礼拝とクリスマス礼拝では栗原・松本が説教を担当しました。

キリスト教センター所属の聖歌隊及びハンドベルクワイアは大学礼拝や大学祭など学内演奏に加えて、病院や福祉施設、教会での演奏、テレビ出演など広報の面でも積極的に活動しました。YWCA は大学祭及びソロプチミスト講演会でのボランティア活動を行いました。

学生のキリスト教への関心を促進するため、2024 年度に引き続き、礼拝堂のステンドグラスに関するワークショップを開催しました。また、法人が行うキリスト教講座にも講師として協力しました。こうした活動への学生の参加が低調であることについては、課題として捉えています。

## （2）教育・研究活動の充実

2025 年度は、教育・研究活動の充実に向けた各施策について、概ね事業計画に沿って着実に実施しました。

教育・研究環境の整備については、キャンパス整備計画に基づく予算を活用し、学内 3 か所にラーニング・コモンズを整備しました。個人学習及びグループ学習の双方に対応する空間を整備するとともに、各席に電源コンセントを設置することで、BYOD 化を前提とした学習環境

の基盤を強化し、多様な学習形態への対応を可能としました。また、これらの整備状況を学内に発信することで、ICT を活用した学習・教育活動の促進にも寄与しました。くわえて、大学図書館 1 階閲覧室の空調設備を更新し、特に夏季における学習環境の改善を図ったほか、在学生数に基づく各学科・専攻の図書予算と大学図書館中央経費による計画的な蔵書整備を行い、教育課程に対応した資料収集を進めました。収蔵能力の適正化及び ICT 活用の更なる高度化に向けた体系的施策については、2026 年度以降の課題とします。

学内研究費の活用促進に関しては、年度当初に研究費ハンドブックの改訂を行い、配分方法及び運用の明確化を図りました。また、法人コーポレートカード導入及び旅費規程改訂に伴う運用変更について、教職員への適切な情報共有を行うことで、新たな会計処理が円滑に運用されるよう寄与し、年度を通じて大きな混乱なく運用できました。なお、学内研究費の運用体制の整備に向けては年度を通じて学術情報部委員会で検討を行いましたが、具体的施策の実施は 2026 年度の課題です。

研究成果の公開・発信については、四研究所及びジェンダー教育研究センターにおいて公開講座・公開講演会を 10 回以上実施し、本学の研究成果の社会還元を推進しました。あわせて、学内機関リポジトリの整備・充実を継続的に進め、研究成果の蓄積と発信基盤の強化を図りました。ウェブサイトを通じた情報発信の強化については、継続的な改善が必要です。

また、地域連携を推進する活動の一環として、「宮城県内図書館総合目録」への参加により、地域における学術情報資源の共有体制の整備に協力し、本学図書館の情報資源を地域社会に還元する基盤を整えました。

外部資金獲得支援については、申請書作成過程における外部添削支援サービスの活用、科研費等の申請に向けた学内研修会の実施並びに外部資金に関する新規情報の配信など、従来の支援を継続して実施しました。一方で、組織的・体系的な支援体制の更なる強化には至っておらず、今後の重点課題とします。

研究倫理に関しては、全専任教員を対象とした研究倫理研修及びコンプライアンス説明会を実施するとともに、各研究所単位でもそれぞれの特性に合わせた研修を行い、研究不正防止に対する意識向上を図りました。今後も継続的な啓発が必要です。

以上のとおり、教育・研究活動の充実に向けた基盤整備及び運用面では一定の成果を上げた一方、ICT 活用の高度化、外部資金支援体制の強化等については、2026 年度以降の課題として取り組む必要があります。

### (3) 教育内容の充実に向けて

#### ア 教育の質の向上に向けた取組

学部・学科の教育目的が達成されるように、引き続き教育の質の向上に取り組むとともに、各種アセスメントによる検証を基に教育内容の改善を図りました。授業科目レベル及び学位プログラムレベルの 2 つのアセスメントについて、具体的に実施計画（工程表）を提示し、それに基づいてアセスメントを実施しました。具体的には、「授業科目レベルのアセスメント」と「学位プログラムレベルのアセスメント」を行い、教員の担当科目数や時間数等の適正さを確認するとともにカリキュラムの検討作業を進めました。その結果、生活文化デザイン学科の 3 ポリシーの改定とカリキュラム改定、教育学科児童教育専攻と日本文学科、心理行動科学科のカリキュラム改定が実施されました。

また、これらのアセスメントを受けて各学科において FD が実施され、授業方法の改良が検討されました。その結果、反転授業や PBL 授業の導入が進みました。

#### イ 学修成果の可視化と主体的学修の確立に向けた取組

教育目標と教育評価との関連性を明確にするため、アンケート調査や授業支援システムを改良し、学生が自らの学修成果を確認して改善を図るための環境を整備し、支援を行いました。

UNIVERSAL PASSPORT RX（以下 UNIPA）の「学修ポートフォリオ」の運用によって、ディプロマポリシーの到達度合いが可視化されたことで、学生が自己省察できる環境を整えました。成績（教員評価）と自己評価の両面から学修成果をより客観的に確認し、改善を図っていくことができるようになりました。

また、パフォーマンス科目については、担当者の 9 割がルーブリック評価を実施し、評価の透明性と正当性を担保しました。これらより、本年度の成績評価確認の申請が減少しました。

#### ウ 学修支援体制の整備

学生の自主的で主体的な学修を可能にするために、施設の整備と運用を進めました。講義館の C404・C405 及び図書館ブラウジングルームをラーニング・コモンズに改修し、情報教室の C408・C505 を BYOD 化の進展に伴って普通教室へと改修し、机・椅子を使い勝手の良いものへと入れ替えました。これにより、学生の交流と相互啓発が一層促進されるものと期待しています。

#### エ 高大接続事業の推進

県内各高校からの探究学習への依頼に積極的に対応し、研究支援や専門的知識の提供を行って連携強化を図りました。

また、合格者の集いや入学前教育の成果検証に基づき、内容や方法について改善を図り、参加者（入学者）の満足度の向上と大学就学への不安解消に努めました。課題の学習効果を可視化できるよう新たなシステムや教材の導入も視野に入れ、実施方法や具体的な内容について検討を進めました。

#### オ 副専攻制度の充実

現行プログラムの見直しを図るとともに、新規のプログラムを開設しました。ジェンダー研究や教職課程の主専攻の学校種・教科以外の免許取得につながるプログラムを新設、制度を充実させました。履修要件を緩和（GPA を再設定）し、学修の機会の拡大を図ったことで、前年度と比べて履修者数は大きく増加しました。

### （4）学生支援の充実

#### ア 学修支援について

学生の自主的学修やアクティブ・ラーニングを支え、BYOD 化の有効性を高める整備として、ラーニング・コモンズにコンセントを多く設置し、PC 等の充電環境を整えました。

また、教務の基幹システムである、UNIPA をバージョンアップし、機能の充実を図ることで利便性を向上し、学生の自学自習環境を整えました。

新入生の既習条件の差を解消して、安心して一斉授業に臨めるよう、学修支援講座を 13 回開講し、受講者数は最多で 103 名、平均 50 名程の参加者がありました。今後も学科や学生の相談に応じて講座を開講し、学修をサポートしていきます。

#### イ 教職課程支援について

教職課程の関連法令に基づいて課程を整えるとともに、教育現場の状況を踏まえた教員養成を目指して内容の充実を図りました。

宮城県教育委員会や仙台市教育委員会、市内各学校と連携して、学校現場と大学とを往還する学修活動を継続的に実施しました。学生サポートスタッフや学校ボランティアとして、60 名の学生が学習支援活動に参画し、教職に対する意識と資質の向上を図りました。

学生の ICT 能力については、各種の授業で向上を図っていますが、AI を含めた技術の急速な進歩に対応した取組が必要で、現場の ICT 活用を踏まえた授業実践力を育成していきます。

就職・就業へ向けては、対面やオンラインの講義、面接、討論指導と多様なチャンネルで教員採用試験の受験支援を行い、111 名が合格しました。就業に向けては、OG 現職教員との懇談会や相談会を設け、赴任に向けての準備を行いました。

#### ウ 学生生活支援について

##### (ア) 自主活動・課外活動支援

2025 年度は、自主活動・課外活動の更なる活性化を進めるために、各サークル・同好会の活動における実行・評価・修正のサイクルがしっかり回るように定期的に各サークル、学友会執行委員会、学生部委員会の三者で懇談の場を設け、年度活動計画の遂行とその自己点検を促しました。

また、各団体の対外活動報告を頻繁に本学ホームページに掲載し、学生たちの活動の広報も精力的に行いました。

##### (イ) 経済的支援の充実

経済的に困窮する学生に対する国による修学支援制度については、2025 年度より開始された「多子世帯の大学等の授業料等無償化」も含め、「高等教育の修学支援新制度」に関する様々な手続きへのサポートをきめ細かに行いました。さらに、経済的に困窮する学生も安心して勉学に取り組める環境整備のため、本学独自の奨学金制度の見直しに着手しました。

##### (ウ) 学生相談・特別支援の充実

「大学全入時代」に突入し、学生の特性や生活様式は多様化し、学生生活に関する悩みや困りごととも変化しているため、個々の学生の価値観や特性を尊重しつつ、願いを実現できるような相談・支援に努めてきました。また、修学上の困難に対する合理的配慮については、学生が自分らしく学べることと学びの本質のどちらもいかされるよう、建設的対話を行ってきました。さらに、学生が自分らしく働ける進路を見つけられるよう、内外の関係各所と連携しながら就労支援（就労移行支援）の充実に努めました。

##### (エ) 学生寮の管理運営及び寮生活のサポート

防犯システムを更新し最新のセキュリティ体制を整えました。また、寮生アンケートによって数年来要望があった害虫の発生については、害虫侵入防止策を館内各所に設置することに加え、薬剤散布を定期的実施することにより一定の効果が得られるなど寮生が快適な寮生活を送ることができるよう環境整備を推進しました。

##### (オ) 学内設備の整備

学内のトイレにおいて、生理用品の配布に取り組みました。予定外の月経にも対応しやすい環境整備を防災備蓄品の更新サイクルと連動することにより持続可能な取組として実現することができました。

#### エ キャリア（就職）支援について

##### (ア) キャリア教育の充実

本学のキャリア教育は、単なる就職支援ではなく、ライフ・キャリアの視点に立って、学生一人一人が女性としての生き方を考え、自らこれをデザインしていくことを後押ししています。そのためにキャリア教育科目が 1 年次から 4 年次まで継続的に学べるようカリキュラムが組み立てられていますが、その中でも本学独自の基礎教育 MGU スタンダード科目に位置付けられている「キャリアデザイン」が大きな特徴です。この科目について 2025 年度は学部改組や設置科目の改訂に合わせて、MGU スタンダードとしての共通項を持ちながらも、学科専門科目としてより学生の特性やニーズに合致するよう検討しました。その結果、

授業の開講時期や方法に違いが生じたものの、現在の社会のニーズや各学科学生の特性に合ったキャリア教育を実施できるものと期待しています。

そして、学科・学年に関係なく参加することができる「キャリアアップセミナー」を2024年度から引き続き8回開催しました。2025年度は宮城県共同参画社会推進課とのタイアップ企画として9月にバスツアー、10月にその参加企業と学生が話をするキャリアアップセミナー特別編を実施したところ、自分たちと同じ学生の視点を共有することで、働くことについて改めて考える機会となりました。そして11月にはキリスト教文化研究所とのコラボ企画を行うなど、2024年度に続き学内部署との連携を図ることができました。

「OGとの集いカフェ」は年1回限りの貴重な機会となっていますが、2025年度は卒業後1～2年の就職したてのOGをお招きしたことから、学生にとって今まさに知りたい情報を直接OGに聞くことができたため、参加者の満足度の高い交流会となりました。

#### (イ) 就職支援を含む多様な進路決定のための支援

2025年度も「誰一人取り残さない就職支援」をモットーに、就職支援を行いました。最も大きな取組は「宮城学院女子大学キャリアナビ（キャリアタス社）」を導入したことです。この導入により、「進路希望調査」及び「進路報告」をWeb回答方式へ変更することができ、学生の利便性が向上しました。さらに、キャリア相談予約についてもキャリアナビ経由に変更し、効率的により多くの学生への支援ができるよう取り組みました。その結果、相談件数は2024年度と大差ないものの、前年度を上回りました。就職内定率はほとんどの学科で高く、2025年度の内定率は2026年5月1日現在で99.7%となり、前年度（2024年度）の99.5%を0.2ポイント上回りました。

また、就職活動の早期化や多様化に対応するため、学内合同企業説明会の開催方法を検討し、今年度は3年生対象セミナーを2月と3月の2回に分けて実施しました。さらに、昼休みに開催している「就活ランチボックス」は学年を問わず参加可能とし、「保護者のための就職支援セミナー」第二部で行われる就職活動体験談についても、学生が聴講できるようにしました。

しかし、就職活動の方法と同時に、働くことに対する価値観も多様化していることから、学内の支援を必要としない学生が一定数いるほか、就職活動になかなか取り組めない学生や、活動を早期にやめてしまう学生が増えていることが懸案事項でもあります。就活ランチボックスは、学生が参加しやすいよう昼休みに実施しているにもかかわらず、参加者は減少しています。一方で、学生との個別面談については、一人当たりの面談時間を増やし、より充実した支援を行う必要があります。したがって、2026年度は学生の声に耳を傾けながら、支援方法の見直しを進めてまいります。

#### (ウ) 留学生の就職支援

留学生は少数であるため、低学年からの個別対応の実施が可能です。2025年度は卒業生がいませんでしたが、在学中の留学生支援について、国際交流センターはもちろん、所属学科との連携を図りました。

#### (エ) OG支援

キャリア支援は在学中に限ったことではありません。様々なライフイベントや仕事の経験を重ねることで、自身のキャリアを見直す機会に適切な支援ができるよう、卒業時にはリーフレットを配布して、卒業後のサポート内容を周知するとともに、同窓会と連携して社会人向けのキャリア講座の案内やOG支援情報の提供等、情報発信を行いました。しかし、これらの周知方法が本学ホームページに限られることから、卒業生に広く伝えられていないことが課題です。また、リカレント教育は9月に2回、11月に1回実施し、内容も充実していましたが、リカレント教育プログラムを構築することはできませんでした。今

後、より社会のニーズに対応するよう、他部局と積極的に連携するほか、リスキリング講座の実施も検討してまいります。

(オ) キャリア支援に関する情報の積極的発信

学生への情報発信として、年度初めのガイダンスを活用しました。新入生に対しては入学後のガイダンスにて、最初にキャリア支援のホームページを紹介し、1年次から各種支援を活用できることを周知しました。就職活動が本格化する3年生には、ガイダンス時に各クラスにキャリア支援課職員が出向いて、本学のキャリア支援について説明を行ったほか、キャリアナビとUNIPAやTeamsなどを活用して随時キャリア支援に関する情報を提供するよう努めました。また、学生はもちろん、保護者にも本学のキャリア支援について理解いただくために、キャリアアップセミナーやOG集いカフェなどの実施状況について、できるだけ詳細に報告するよう心掛けました。

(5) 学生募集

ア 志願者確保に向けた対応

(ア) 総合型選抜・学校推薦型選抜での志願者確保

2026年度入試における総合型選抜と学校推薦型選抜による入学者数は合計493名(MG推薦Ⅲ期の合格者1名を含む)で、前年度(488名)に比べて微増でした。ただし、総合型選抜Ⅰ期に限ると、2025年度の入学者153名から184名へと大きく増加しました。増加の一因は、通信制高校からの志願者が増えたことだと考えられます。総合型選抜Ⅰ期で入学した184名のうち、通信制高校出身者は28名で、前年度の13名から増加しました。

一方、一般選抜については、A日程において「全学部型・学科特化型」方式を「前期・後期」方式に変更し、入試科目も3科目から2科目へと変更しました。2025年度入試と比較すると、志願者数は399名(全学部型237名、学科特化型162名)から529名(前期417名、後期112名)に増加しました。単年度では評価が難しいため、2027年度入試の結果を踏まえて、上記の変更の効果について検証します。

(イ) 積極的な入試広報の展開

2025年度も2024年度と同様に、年6回(6月、7月、8月、9月、10月、3月)のオープンキャンパスを実施しました。2025年3月～9月(10月は大学祭との合同開催のため、オープンキャンパスのみの来場者数を把握することが不可能)のオープンキャンパス来場者数(高校生のみ)は合計1,790名となり、2024年3月～9月の合計1,550名と比べて15.5%増となりました。

また、高校訪問の体制について見直しを進め、入試広報課の職員以外にも、入試部委員や特定学科の教員が高校訪問を担当しました。2026年度も各学科・専攻と連携して協力教員を増やししながら、訪問先のニーズを踏まえた広報活動ができるよう努めます。

イ 多様な学生の受入れ

2024年度から編入学試験においても指定校推薦制度を導入しました。2026年度は全学で13名の編入学生を受け入れましたが、そのうち6名が指定校推薦制度を利用しています。入学者を安定的に確保するために、編入学、社会人、留学生等の入試についても積極的な広報を行い、一定の入学者を継続的に得られるよう努めます。

他方で、入学者確保を優先することで、学力的にやや不安のある学生を受け入れている可能性があることも否定できません。入学後の教育において問題が生じないように、出願書類の記載内容を各学科・専攻と共有するなどの対策を講じています。今後は、入学者確保と入学後の充実した学修を両立させるために、他部署とのより一層の連携が必要となってくると考えられます。

ウ 入試制度の円滑な運営

入学者選抜においてミスが生じないよう細心の注意を払いました。試験監督や入試運営業務を担当する教職員には事前に留意事項を周知し、出題採点委員に対しては、会議や確認作業の場で細部にわたって注意喚起を行いました。現時点では、入試ミスの報告を受けておらず、上記の取組が一定の効果をもたらしたと考えています。

#### (6) 社会連携 (MG-LAC 活動を含む)

連携事業を推進している各団体とは、定期的な協議の場を設けることで新たなニーズの発掘と課題を発見し、実践的な活動を展開することに取り組みました。かねてより連携協定を結んでいた認定 NPO 法人まちづくりスポット仙台とは、コミュニティの活性化について協議を重ね、同法人が運営する「交流スペース」(BRANCH 仙台内)を本学のサテライトキャンパス(通称:サテライトスポット)として使用することについて、2025 年 9 月に覚書を交わしました。サテライトキャンパスでは、本学の教育活動に加え、学生のボランティアや自主活動の学外拠点としての利活用が期待されます。産学連携の協定先との活動では、2024 年度に引き続いて NTT 東日本(株)宮城事業部と協働して働き世代の健康増進事業を実施しました。また、(株)仙台村田製作所との連携事業においては、2024 年度も実施した社員食堂メニュー提供と同社従業員の健康増進に貢献する運動方法のレクチャーのサポートを行いました。さらに、2025 年 12 月には(株)仙台水産と新たに連携協定を締結し、未利用資源の活用などの魚食普及活動を共に取り組むことになりました。

学生の自主活動やボランティア活動をサポートするリエゾン・アクション・センター(MG-LAC)では、災害ボランティアの派遣は行いませんでしたが、能登半島地震の被災地訪問経験を持つ学生が中心となって新たな自主活動プロジェクト「「生きる」をつなぐプロジェクト」の活動が開始しました。このほか、学生が在学中にボランティア経験を踏まえて地域社会との関わりの機会が得られるよう、キャンパスがある桜ヶ丘地区の夏まつりのほか、児童館や子ども食堂などのボランティア活動の紹介を積極的に行いました。泉区事業の「いずみ絆プロジェクト」では 2024 年度に引き続き本学から 2 件が採択され、泉区内で学生の学びをいかした活動を展開しました。

音楽リエゾンセンターの活動としては、まず 2025 年度の認定演奏員 30 組が、仙台市を中心に、市民センターの催事などにおいて演奏を提供し、好評を得ました。なかでも、2023 年度から継続的に依頼を受けている仙台市文学館の土井晩翠にちなんだロビーコンサートでは催事の成功に大きく貢献し、他文化施設との連携の可能性を広げました。また、5 月には、新規認定者のお披露目を兼ねたスプリングコンサートを本学で開催し、質の高い芸術音楽に親しんでいただく機会を提供しました。リピーターの方も多く、センターの活動が地域に定着している手応えを得ました。楽友ネットワークの活動としては、会員交流会を実施し、演奏会と茶話会を開催するなど、交流の機会を持ちました。その他、ニューズレターを予定どおり年 2 回発行し、会員に多面的な交流機会を提供しました。これら認定演奏員及び楽友ネットワークの活動は、大学公式ホームページや音楽リエゾンセンターの公式 Facebook によって広く発信しました。

#### (7) 国際交流

海外協定校として新たに 4 つの大学(梨花女子大学(韓国)、オークランド大学(ニュージーランド)、ビクトリア大学(カナダ)、セント・ラ・サール大学(フィリピン))と協定を結び、協定校が 10 か国・地域の 15 大学に拡大しました。昨今の円安傾向なども影響し、半期または 1 年間の長期交換留学を希望する学生の数がコロナ禍以前の状況まで回復していない状況を鑑みて、本学の魅力ある国際交流事業を広報するために留学相談会(長期交換留学)を年間 4 回開催したほか、今年度新たに海外短期派遣プログラムの情報提供を行う相談会も 4 回開催して、学生が海外に目を向ける機会の創出に努めました。

協定校への交換学生の派遣は、クィーンズランド工科大学（オーストラリア）に 2 名、オークランド大学（ニュージーランド）1 名、忠南大学（韓国）3 名（前年度からの継続 1 名含む）、高雄大学（台湾）1 名の計 7 人となりました。本学の長期休暇期間中に参加できる短期留学プログラムについては、弘光科技大学（台湾）（夏季）2 名、梨花女子大学（韓国）（夏季）2 名、オークランド大学（ニュージーランド）5 名（夏季 4 名、春季 1 名）、ハワイ大学（アメリカ）（夏季）4 名と、計 13 人の学生が参加しました。これら海外派遣学生を対象として、渡航やその他関連する手続きの方法、現地事情の理解を深めるための事前研修会を年度中に 9 回実施しました。

協定校からの交換留学生の受け入れについては、高雄大学より 2 名の留学生を迎えました。留学生に対しては、桜ヶ丘地域の住民との交流の機会を設け、自国の紹介を通して文化の違いを互いに理解すること、またスキー教室に参加して仙台の冬を体感することなど、日本滞在中に豊かな経験が得られるように努めました。

## （8）生涯学習

2025 年度は生涯学習講座を通年にわたって開講し、年間で 26 講座、延べ人数で 369 名の方々に受講していただくことができました。しかし、若年層をターゲットとした新しい分野の講座の開発にも取り組んだものの、受講希望者を十分に集めることができずに開講できないなど、2026 年度に向けて改善の余地が残る結果となりました。

2024 年度に連携協定を結んだ宮城県味噌醤油工業協同組合とは、共同で「みやぎ県民大学」学校等開放講座を開き、仙台みその魅力を広める活動に取り組みました。同講座の受講生からは食に関する講座の開講を本学に期待する声が複数挙げられており、今後も本学の教育研究成果の地域社会への還元を目指して、学外・一般向け開放講座の内容を検討していきます。

## （9）大学院

### ア 人文科学研究科

入学者確保について、2025 年度から新たに人文科学研究科及び各専攻の紹介記事を大学ホームページにアップしました。また、2023 年度入試から導入した社会人対象の入試制度を広く告知しました。さらに、オンライン相談を継続し、出願時期にあわせ大学ホームページ上で案内しました。加えて、対面による入試相談会を第 1 回入試前及び第 2 回入試前の計 2 回実施しました。

2025 年 10 月 4 日に第 28 回人文学会研究発表大会を開催し、2 年生 1 名の修論中間発表にあたる研究発表及び 1 年生 1 名の研究計画報告を行いました。同大会終了後に引き続き人文科学研究科 FD 研修会を実施し、各院生の発表、報告を通し学習成果を把握し、その認識を研修会における課題検討等にかせるよう情報交換を行いました。さらに、2026 年 1 月下旬に各専攻でそれぞれ修士論文成果報告会を開催しました。

1 年生 2 名が、国立研究開発法人科学技術振興機構及び慶応義塾大学教養研究センターがそれぞれ作成した研究倫理研修動画を視聴し、オンラインによる研究倫理研修に参加しました。

修了予定者を対象に、「学修成果の把握に関するアンケート」（DP 達成度にかかわる調査）、「大学院における学びに関するアンケート」を 2026 年 3 月に実施し、学修成果把握のための材料を得ました。さらに、「大学院における学びに関するアンケート」については、学年間の比較ができるように 1 年生にも回答をしてもらいました。

2026 年 2 月 26 日に TA 業務報告会を開催し、2024 年度のティーチング・アシスタント業務の振り返りを行いました。同報告会終了後に引き続き意見交換会を開催し、2026 年度の大学院運営に資する貴重な意見を得ました。

### イ 健康栄養学研究科

健康栄養学研究科では、教員・大学院生及び大学院進学を目指す学内外の学部生等を対象にFD活動を実施し、参加者間の研究教育内容や姿勢を理解する情報共有の機会と質の向上を図りました。入学者確保に向けた広報活動として、学外の学部学生と社会人に対しては、ホームページにオンライン・メール相談の案内を掲載し、随時、相談に対応しました。学内の学部学生には研究科合同による対面形式の大学院説明会を年2回実施するとともに、UNIPAによる案内配信等を通じて、随時、広報活動及び相談対応を行いました。その結果、2026年度第1回・第2回大学院入試では2名が受験し、2名が合格者しました。

「臨床栄養学分野の管理栄養士のための高度専門力育成プログラム（BP）※」には2025年度に受講者1名が入学しました。現職者が受講しやすい環境作りを継続して進めてきたことが、受講につながったものと考えられます。また、2025年度から、本プログラムが教育訓練給付金の専門実践教育訓練として指定されたことにより、今後の受講生確保への効果が期待されます。

本研究科の大学院生の修了時における進路指導及び就業支援については、キャリア支援課及び本研究科所属教員が連携し、継続的に実施しました。臨床栄養師の資格取得を目指す大学院生1名は、臨床栄養分野で管理栄養士として活躍することを目標に、意欲的に学修・研究に取り組みました。

※BP=Brush up Program for professional（職業実践力育成プログラム）：社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的とし、大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的な課程を文部科学大臣が認定して奨励する仕組み

#### (10) 大学後援会活動及び保護者等との連携

大学後援会の活動にについて、4月4日の入学式終了後に、新入学生の保護者の皆様を会員としてお迎えする「大学後援会入会式」を執り行いました。続いて、5月31日には本学の礼拝堂を会場として「大学後援会総会」を開催しました。また、青森・秋田・岩手・山形・福島の東北5県において「地区後援会」を開催しました。さらに、本学の教育方針や日々の教育活動、学生の学内での様子をお伝えするため、会員である保護者の皆様へ「宮城学院女子大学後援会会報（vol.13）」を発行いたしました。

後援会総会においては、開催に先立ち礼拝堂にて「音楽科によるミニコンサート」を開催し、本学オルガニスト・研究生・学生による演奏に多くの会員の皆様にご参加いただきました。総会においては、2024年度の事業報告及び2025年度の事業計画などについて審議し、承認をいただきました。その後、学生生活やキャリア支援に関する報告、学長賞受賞者による成果発表を行いました。さらに、新たな企画としてキャンパス見学ツアー及び小ホールにおいて保護者と教員の懇談会を実施いたしました。また、キャリア支援センターにおいては、担当職員による就職等に関する個別相談の場を設けました。

地区後援会では、保護者の皆様の関心が高い就職状況やキャリア支援に関する事例報告を行うとともに、実際の就職活動を経験した在学生による就職活動体験談の発表を行いました。さらに、学業成績などの教務事項及び学生生活に関する事項など就職以外の事項についても個別懇談を行いました。

## <宮城学院中学校高等学校に関する事項>

### (1) 教育計画全般

#### ア 建学の精神

中学校高等学校では、全教員が建学の精神に立ち返り、スクールモットーである「神を畏れ、隣人を愛する」を具体化して教科教育、学級運営にあたってきました。全教員が信仰の有無にかかわらず本校の教育に携わるために、キリスト教教育を「自己受容」と「自己肯定」、「多様性の尊重」と「他者との共生」、「ミッションの発見」と言語化し実践してきました。また、女子教育についても、「女性に備わった資質、能力を見だし、その特性を豊かに育み、ライフデザインをサポートする」と言語化して実践してきました。

#### イ スクールポリシー

建学の精神をより具体化したスクールポリシーの下、教育を実践しました。広報活動では本校の教育内容を丁寧に説明し、アドミッションポリシーを明示して受験生を募集しました。また、本校の教育活動の特徴である英語教育、音楽教育、国際型探究教育に力を入れたカリキュラムを実践しました。中学校高等学校ともに英語に特化したコースを設け、流暢さと正確さを大切にしながら実践的な英語力育成に努めました。音楽教育においてはキリスト教音楽を中心としたカリキュラムを組み、弦楽器を授業に取り入れるなど特色ある教育を実践しました。また、各教科指導において世界的な視点で問題を発見し、その課題を解決に向けて、生徒が共に考えることができる取組を行いました。生徒会活動、学校行事を通じてリーダーシップとフォロワーシップを学び、主体性と協働性を育みました。

#### ウ 教員研修

新任者研修会を実施し、宮城学院の教育内容を理解し共に働く者として価値観を身に付ける機会としました。教員全員による全体研修では「建学の精神研修会（8月）」「パワーハラスメント防止セミナー（8月）」「中高教員のための教育現場におけるAI活用研修会（12月）」を行いました。また、各教員が動画を視聴して学ぶ「動画視聴研修」ではコーチング、コミュニケーションのスキルアップのほか、学級経営や生活指導についても研修しました。年間を通して各教員が担任として、教科担当者として等、自由に研修テーマを決め、年間研修計画を立て取り組みました。また全教員が学内外の研究会に参加し研修を継続的に行いました。

#### エ 外部評価

PTA、地域住民、初等中等教育関係者、有識者による学校関係者評価委員会を設け、外部評価を行いました。生徒保護者からのアンケートを基に改善すべき点を教員会議で共有し改善に努めました。

### (2) キリスト教教育活動

キリスト教教育の要である日々の礼拝を大切にしました。特に講堂礼拝、放送礼拝では本校の教員による奨励の他、宮城学院女子大学の先生方、仙台市内のキリスト教学校の宗教主事、近隣の教会の牧師を招きスクールモットーとしている「神を畏れ、隣人を愛する」生き方を生徒に説き聞かせていただきました。また、今年度よりノンクリスチャン教員も講堂礼拝で感話を行い、キリスト教の価値観について学ぶ機会としました。HR礼拝においては生徒が順番に聖書を読み、感話を担当し、お祈りを献げることでキリスト教をより深く学ぶ機会としました。今年度は特別礼拝として、「イースター礼拝4月」「ペンテコステ礼拝6月」「創立記念礼拝9月」「収穫感謝礼拝10月」「宗教改革記念礼拝11月」を実施するとともに、キリスト教教育週間全日行事及び創立記念行事を通して建学の精神に立ち返りつつ自らを見つめ、神を信じる生き方について考える機会とすることができました。今年度のクリスマス礼拝は、6年ぶりに保護者、同窓生を迎え入れ大学講堂で行いました。全てのプログラムをコロナ禍前のこれまでど

おりの形で礼拝を献げることができました。中高生を始め参加した同窓生は宮城学院のアイデンティティを再確認し、保護者、教職員と共に大きな喜びとなりました。

YWCA の取組として、宮城学院女子大学附属認定こども園森のこども園と児童館等の施設への訪問、街頭募金への参加を通じて、学びのときとすることができました。高校生 4 名が東京で開催された全国カンファレンスに参加し、「一世界につながるいのちのチカラー小さなわたしにできること：多様性・尊厳・希望」というテーマの下、全国の仲間と共に、学びと交流の時間を持つことができました。仙台 YWCA で開催されたバザーや文化祭、クリスマスを祝う音楽会において、クラフトコーナーを開設し、売上金を能登半島地震の義援金や NPO 法人 ACE への寄付金として送金しました。

### (3) 学習指導

ア 実際の社会や生活で生きる知識と技能の習得はもちろんのこと、未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力、学んだことをこれからの人生にいかそうとする学びに向かう人間力を育むため、生徒が自ら学ぶ姿勢を大切にして授業を実践しました。生徒が主体的に授業に関わり、対話により答えを導き出す工夫をしました。探究型授業を実践することにより生徒の深い学びにつながりました。

イ 生徒の学力向上のため、放課後学習支援室（スタディモール）を活用し、生徒が自ら学習に向かう姿勢を持てるよう指導しました。また、担任教員による面談を定期的に行い、学習に積極的に取り組むことができるよう指導しました。

ウ 生徒が所有するデバイスを学用品としても利用する（BYOD：Bring Your Own Device）こととして、2 年が経過しました。生徒が自由に使えるデバイスを用いることにより、より利用頻度が向上し、生徒の情報収集力の向上につながっています。授業、HR、生徒会活動の全てが Google Classroom によって情報を共有することにより、スムーズな運営につながっています。また、Google Meet(双方向通信技術)を用いて教室に入れない生徒、何らかの理由により登校できない生徒にも授業の機会を提供し、学習の機会を損なうことがないように努めました。選抜コース、特別進学コースについては、個別学習指導体制（オンライン個別学習システム及び個別基礎基本学習）を取り指導しました。

エ 選抜コースでは春・夏・冬講習、放課後講習のほかに自主学習の時間を確保するなど学習時間を保障してきました。特別進学コースでは共通テスト対策を早い時期から実施したほか、夏・冬の長期休業中の講習を増やすなどして対策を強化しました。総合進学コースではアクティブ講座（コミュニケーションスキルアップ講座、マナー講座など年間 7 回開講）を設け、自分らしい生き方を考えるきっかけとしました。また、各コースにおいて面談を重ね、早期に進路目標を立てる指導を行いました。コースごとに生徒の学力向上のための個別指導を行いました。学校推薦型選抜及び総合型選抜による進学実績向上を目指して全教員で小論文指導及び面接対策指導に取り組みました。

オ 英語の授業では中学校、高等学校共に年間 7 回のオンライン英語プログラム及び英語ネイティブ教員によるオールイングリッシュ授業を通して、4 技能（読む、話す、書く、聞く）を大切にした実践的な英語力を身に付ける授業を行いました。さらに、定期的なプレゼンテーションやパフォーマンステスト（本校独自の英語運用能力確認テスト）、ICT 機器を使用して英語による世界各国の情報収集など、実用的な英語運用能力の向上のための授業を行いました。中学校では 3 年間でより体系的なプレゼンテーションの授業が実施できるように、発表回数を増やすなどして、生徒が英語で考え、発表する機会を持ちました。この結果、任意の受験ながら高等学校では 1 級合格者 1 名、準 1 級合格者 8 名、中学校では 2 級合格者 4 名、準 2 級合格者 6 名と好成績を収めることができました。また、特別進学コースの中に設置したグローバル・スカラー選抜は、プレゼンテーション、ディベート、アカデミックライティ

ング等の授業をグローバルコミュニケーションコースと共に実践し高度な英語運用能力を習得する授業を実践しました。その結果、英語スピーチコンテストにおいて、高等学校 2 年生に在籍する生徒が県大会で最優秀賞（第 1 位）を獲得、東北大会、全国大会でも最優秀賞（第 1 位）を獲得することができました。このほか、海外大学に延べ 7 名が合格しました。（イギリス国立大学 2、オーストラリア公立大学 2、カナダ私立大学 1、マレーシア私立大学 1、オランダ私立大学 1）

カ 音楽の授業では、キリスト教音楽を中心に授業を実践しました。クリスマス礼拝では各学年のクリスマスキャロル、メサイア「ハレルヤコーラス」の練習に取り組みました。全校生徒が思いを一つにすることができるこの讚美は、本校が大切にしている目には見えない力を養い、豊かな心の教育につながっています。クリスマス礼拝にはハンドベルクワイア、聖歌隊、オーケストラも役割を担っており、クリスマス礼拝は本校の音楽教育の要となります。

そのほか、日本歌曲のみならずイタリア歌曲やドイツ歌曲にも取り組み、音楽の多様性について理解しながら様々な音楽文化にも親しみました。楽典や音楽史も同時に学ぶことにより、音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えました。これにより生徒たちは、作曲者の思いや楽曲に対する意図を感じ取りながら、それにふさわしい音楽表現を意識し、音楽の美しさを味わう学びを得ました。

弦楽の授業では、中学校 3 年生全員と、高校 1 年生、2 年生の選択生がヴァイオリン、ヴィオラ、チェロの 3 つの楽器から 1 つを選択し、1 年間学習を継続したことでより確かな演奏技法と豊かな音楽性を身に付けることができました。

キ 宮城学院女子大学との高大連携を進めました。宮城学院女子大学が同じキャンパス内に併設されている利点をいかし、大学の講義を高校 3 年生が毎週受講しました。今年度は 7 講座（生活文化デザイン入門、日本近代文学入門、アメリカンポップで楽しむ英語、人間文化学入門、高校生のための心理学入門、声楽アンサンブル、自然科学入門）を各学科から提供いただきました。

ク 大学入学共通テストについて、各教科において研究を進めました。また、各コースにおいて模擬試験の結果から生徒の学力を分析しました。その結果を授業に反映するなど生徒の学力向上に努めました。さらに、中学校では「学力推移調査」を実施し、生徒の学力を分析して、有効な指導を行いました。

#### （4）海外研修・国際交流

2025 年度もオーストラリア、ニュージーランド、カナダへのターム留学を実施しました。夏期（7 月～9 月）は高校生 2 名が参加し、オーストラリアのアデレード市の公立高校でホームステイをしながら授業に参加しました。冬期（1 月～3 月）は中学生 3 名を含む 8 名が参加し、3 か国（オーストラリア 2 名、ニュージーランド 2 名、カナダ 1 名）に分かれて現地の高校の授業に参加しました。また、3 月にはオーストラリア短期研修に中高生 8 名（中学生 3 名、高校生 5 名）が参加しました。8 日間の研修でしたが意欲的な学習につながりました。また、高校生 1 名がカナダにて半年間（1 月～6 月）学んでいます。

#### （5）生徒会指導、生活指導

##### ア 生徒会指導

生徒会活動は生徒の自主性を重んじ、主体性を育成する教育活動の場として位置付けています。多様性を尊重し、他者と協働して学び続けることができる集団作りを行い、毎週行われる委員会活動や多くの行事を通じて、責任と義務を全うするリーダーシップを育ててきました。これらは自らの力で問題に取り組み、解決する知性を育み、思考力、判断力、表現力を養う場として大切にしていることです。2025 年度も運動会や文化祭、合唱コンクール、ス

スポーツ大会など全ての生徒会行事を計画通り実施することができました。各行事を通じて協力することの大切さや、一つのを皆で作り上げる喜びと達成感を得ることができたこと、各学年や他学年との交流を通じて、宮城学院生としての意識を高め合うことができたことは大きな収穫となりました。また、高等学校では生徒会の働きかけにより、コートやスクールバッグのルールの変更を行いました。中学校では生徒会の働きかけにより、補食やスクールソックスの代替品の着用について、ルールを見直し、改正を行いました。これからも、現行のルールを守っていくことを大切に、生徒が主体的に変えてきたルールについて見直しを図りながら、より魅力のある学校生活を歩んでいけるように指導していきます。

#### イ 生活指導

教員がより短い間隔で生徒の心身の状態を把握できるように、学校生活アンケートを3回実施しました。特に生徒たちの人間関係の悩み、いじめの項目に焦点を置き、アンケート結果から速やかに面談の機会を持ち、生徒が心身共に健やかに充実した学校生活を送れるように、各担任のみならず全教員で対応しました。中学校のアンケート結果については、「学校に来るのが楽しい」「授業がよく分かる」と意識している生徒は9割近くおり、「今の自分が好きだ」「私にはいろいろな良いところがある」など自己を肯定する意識が高い生徒が8割近くいることは、良い結果でした。また、中高6カ年の女子生徒の成長過程に合わせて、各学年において健康教育講演会を実施しました。さらに、スマートフォン、インターネットを巡るトラブルを避けるため、ネットパトロールを実施するとともに安全に使用するための講習会を行い、生徒自身のスマートフォン利用に関する注意を喚起することに努めました。

#### (6) 進路指導

コースそれぞれの進路実績を向上させるために、各コース主事が授業担当者と情報共有を行い、生徒一人一人に合った進学指導を行いました。特に、特別進学コースと選抜コースでは、12月に外部講師を招き、生徒それぞれの学力の伸張を確認して、共通テストまでの授業、その先の二次試験の指導につなげました。二次対策では、出願大学ごとに受験対策の個別指導を実施し、受験生の国公立大学二次対策や私立大学受験支援を行いました。また、3年生の受験に向けた小論文指導を2024年度に引き続き全教職員で分担して専門性の高い指導を行い、宮城学院女子大学を中心とした指定校推薦入試や総合型選抜による進学指導を丁寧に行いました。その結果2025年度も総合型、学校推薦型、一般のどの選抜でも高い割合で第一志望に合格しました。

「進路の日」（卒業生による受験体験懇談会及び各業種の職業人によるミニ講座）などの行事を通して、生徒のモチベーションが高まる進路指導が行える様に改善を重ね、今後も生徒一人一人の進学を応援していきます。

※2025年度卒業生進学状況 卒業生 103名

(宮城学院女子大学 23名、国公立大 12名、県内私立大 25名、その他私立 20名、短大 4名、専門学校 8名、海外大学 5、その他 6名)

#### (7) 入試広報

入試広報部による、組織的な入試広報活動を展開しました。公式 SNS (Instagram や LINE) に積極的に投稿し、生徒の学校生活の様子を配信しました。特に Instagram の投稿数は約 600 件、2026 年 4 月時点のフォロワー数は、2,040 名を超えました。また、ホームページを活用した情報公開に努め、更新回数を増やしました。

2025 年度オープンキャンパスは中学校 2 回 (7 月、9 月)、高等学校 2 回 (7 月、10 月) 行い、学校紹介や体験授業のほか、部活動体験会を行い本校の魅力を伝えました。また、学校説明会も 7 月、10 月のほか、「土曜日の個別相談会」、平日に保護者が仕事を終えた後に参加できる「ナイト説明会」、双方向通信技術を用いた「オンライン説明会」を開催して多くの小中学生とその保護者に本校の魅力を伝える機会を設けました。

学外団体主催の学校説明会に参加し、通塾する受験生に対する広報活動を積極的に行いました。また、市内の各中学校を訪問し、宮城学院高等学校への関心と理解を高めるよう努めました。あわせて、部活動推薦の対象となる生徒に対し、直接学校説明会を実施した結果、多くの受験生を獲得することができました。中学校の英語入試受験生を増やすために、小学生を対象とした「チャレンジ・イングリッシュ」と新たな取組として「奨学生対象英語暗唱コンテスト」を実施しました。

#### (8) スクールバス

スクールバスは現在、北東部・古川・愛子の3路線を運行しており、2024年度の経費見直しに伴い、今年度より料金改定を実施しました。また、更なる経費削減のため、今後は利用者数に合わせ、年度途中であっても車両を小型化するなど対策を取っていく予定です。また、運行経路や運行形態を含め、さらなる改善を検討していきます。

#### (9) その他

地域の自治会、公立小・中学校との信頼関係を大切にするとともに、留学生との交流などを推進し、地域から愛される学校として、地域の人々との交流、協力関係を深める努力を続けました。引き続き、新しいブランドイメージにつながるよう努力していきます。

## ＜宮城学院女子大学附属認定こども園「森のこども園」に関する事項＞

### (1) 0～5 歳児の保育

2025 年度は、個々の誕生日に合わせた誕生会の実施や修了記念品の味噌作りなどの活動にも継続して取り組みました。誕生会には両親で参加する家庭が多く、誕生日を特別な日として園で過ごしていただきたいという園の意向に賛同し、子どもたちの活動に実際に参加し給食も一緒に食べるなど園行事への関心の高さが伺えました。また、5 歳児の味噌作りを参観日に親子の活動にしたことで家庭での食育活動にもつなげることができました。年 5 回程度開催する「森の音楽会」では引き続き中高に協力をいただき、弦楽班、吹奏楽班、ハンドベルクワイアの演奏の機会を持つことができました。外部の方を招いてのハープやピアノとヴァイオリンによるアンサンブルに加え、2025 年度は大学教授による園児参加型の音楽会など新たな機会を設けることもできました。

行事後にはアンケートを実施し行事の持ち方や内容の検討、見直しにつなげていますが、猛暑による運動会の実施時期・開催場所の検討、クリスマス礼拝の以上児・未満児を二部制にすることで同日開催など、参加する保護者の方に負担のない方法を試行錯誤しながら検討を重ね進めている状況です。

10 月から近隣でクマの目撃情報が続き、秋冬野菜の栽培中止という選択をせざるを得ない状況となりましたが、森の下草を払い緩衝地帯を設けることで、経験や学びの遊びの場としては安全で豊かな環境となりました。野菜やお米の栽培を通じた食育活動や園舎に隣接する森での遊びの充実と学内遊歩道の活用は、本園の理念に根本に係るところであります。2026 年度は栽培活動の再開と森での遊びを再開させ、学院及び保護者にも環境維持活動と一緒に取り組んでもらえるように協力を呼び掛けていきたいと考えています。

2026 年度も引き続き、教職員一人一人が自己研鑽を積むとともに、園内研修や会議を通して本園が目指す保育に努めながら、職員間でのコミュニケーションも丁寧に取り合っていきたいと思えます。一人一人の子どもたちへの丁寧な関わり、また多様化する家庭及び保護者への支援も大切な任務として支援にも努めていきたいと考えています。

### (2) 食育

2025 年度は、これまで積み重ねてきた業務内容や流れ、経験を基に職員同士のコミュニケーションを図りながら、より安全かつ円滑な運営を行ってきました。作業分担等にも慣れ、より徹底した衛生管理ができたと思えます。

2025 年度、新たに行った喫食状況調査では担任・栄養士が園児の食の好み等の実態や傾向を把握することができ、献立や給食だよりの作成などに役立てることができました。また、定期的な職員会議の中で、給食会議を実施し、園全体で給食の時間がよりよいものになるよう共通理解を図ることができました。

食に関わる保育活動では、(有)くりこま高原ファーム(米の生産者)、MountainHouse(農家)、(株)会社山形屋商店(味噌醤油製造販売)など、食の生産に関わる方を定期的にこども園にお招きし、子どもたちとの交流を深めました。一緒に体験活動をすることで食に対する興味関心が高まったように思います。また、食品栄養学科の学生と共に保護者、子どもにベジメータ®測定を定期的に行い、保護者との交流の機会を作りました。この機会を保護者支援に繋げていけるようにしていきたいです。

※ベジメータ®は、光を使った光学的皮膚カロテノイド量測定装置です。白色 LED を指先に 10 秒間照射するだけで、簡単に野菜摂取状況を評価できます

### (3) 子育て支援

2025 年度の子育て支援事業は、「園庭開放」「子育て相談」の実施のみでした。2024 年度から職員の人的配置が困難なため、実施できなかった事業(「どんぐりくらぶ」「すくすく赤ちゃ

ん」「にこにこ Day」「子育て講座」等)を、2026年度は、できることを工夫しながら実施したいと考えています。

これまでの新入園児の多くが、『未就園児親子通園クラス どんぐりくらぶ』の出身者でした。「自然環境をいかした活動」を親子で体験していくことは、本園への理解につながります。そうした流れを経て入園することにより、親子ともに入園後の生活がスムーズに展開されました。母子通園クラスとして定期開催はできませんでしたが、1号認定(幼稚園機能)で入園が決まった子どもたちには12月から3月まで4回に渡り「遊びの日」を設けました。先生たちと顔見知りになり、安心して過ごせる環境であることを理解してもらうためにも今後も継続していきたいと考えています。

また、親子活動だけでなく「大人のひろば」の開催も大切であると考えます。核家族化やワンオペ育児等で、母親の不安感やストレスが多くなっています。困り感を話したり、分からないことを聞いたり、ほっと一息つける場があることで、親の心が安定し、子育ての向上につながるからです。

さらに、大学附属の園であることをいかし、「子育て講座」の開催も大切に考えています。保護者が、「普段の育児から少しの時間でも離れて専門家の話を聴くこと」「参加者同士で情報交換をして共有すること」で、親自身が学びを深め、幸福感を持って子育てができるよう支援したいと思います。このような学びの場は、保護者だけではなく、職員の学びにもつながり、保育の向上につながると考えています。

#### **(4) 児童クラブ「森の家」：小学1年～4年 20人(桜丘・上杉山通・長命ヶ丘・北仙台・南光台東)**

今年度は、園庭に生い茂るふきを収穫し「きゃらぶき」を作って味わったり、豊かな園庭の草花を使って押し花や押し葉を製作し、しおりやステンドグラス作りを行ったりするなど、四季折々の森の自然・恵みをいかした遊びや活動を行うことができました。また、在園児との交流する機会を設けたことで、今年度4月から児童クラブに加わった新1年生も、すぐに新しい環境に慣れ、他学年と関わりながらのびのびと遊ぶ姿が見られています。長期休業中は、大学の先生方や学生の皆さんによる英語教室や科学の実験、お菓子作りなど様々な体験の機会をいただき、子どもたちの笑顔が溢れる、学びの多い時間となりました。さらに、夏休みには公共交通機関を利用して科学館を訪れたり、4年生の卒業に伴うお別れ遠足として水族館へ出かけたなど、園外での活動も取り入れました。児童クラブの仲間との関係をより一層深めることができました。

## <宮城学院女子大学附属音楽教室に関する事項>

### (1) 教育について

授業は対面レッスンで行われ、時に遠隔レッスンも活用し、生徒のニーズに応えながら教育活動を行うことができました。様々な年齢の様々な状況にある生徒各々が、より良く学びを継続できるよう体制を整えることができました。

2024年度に再開した合奏授業は弦楽器専攻生のみでしたが、2025年度はピアノ専攻生も加わり、楽器初心者の生徒を除いてほとんどの生徒が合奏を体験し、発表まで行うことができました。その結果、弦楽専攻生だけにとどまらず、ピアノ専攻生やその保護者からも、新たに充実した感想が聞かれました。スタッフ・教師が生徒や保護者とコミュニケーションを密に取りながら、音楽やその授業を通して充実感を得られたことは大きな収穫でした。

日々の学習成果は、例年どおり発表会やテスト（ソルフェージュは、前後期末に各1回、ピアノエチュードは2月末）にて確認することができました。また入試前の模擬テスト（発表）も授業内で個別に実施し、受験生への細やかな対応もかないました。

大学音楽科のオープンキャンパスからつながった生徒も含めて、教室から3名が無事に音楽科に合格しました。

### (2) 行事について

#### ア 発表会

2025年度は、9月に発表会を開催し、24名が出演しました。ピアノ・ヴァイオリン・声楽に加えて、ユーフォニアムや作曲専攻の作品発表の機会も得、充実した発表の機会となりました。保護者や家族の方々に各生徒の学びの成果をお聴きいただくだけでなく、多くの方々に本教室の教育内容をお伝えできる機会として活用できました。

#### イ クリスマスコンサート

仙台市泉区のショッピングモールタピオでのクリスマスコンサートでは、弦楽合奏に加えてピアノ専攻生も加わり多くの生徒が出演することができました。また大学音楽科との共催もかない、声楽デュオとトランペットの演奏も加わり、華やかなステージになりました。長年実施してきた演奏場所が変わりましたが、リハーサル時から本番終了まで立ち見でも真剣に聴いて拍手をくださるたくさんの観客がありました。この体験は、教室生にも保護者にも大変良い機会となりました。

### (3) 広報について

2024年度同様、音楽科学生の出身高校や、県内小中高、また東北六県の楽器店などへ音楽教室の案内送付を実施しました。近隣の団地へのチラシの折り込みも配布地域を精査し実施しました。

また、音楽科と連携しながらオープンキャンパスでの受験生への案内、また早期合格者への案内も、積極的に行いました。3月のオープンキャンパスでは、具体的な説明を求める参加者に適切なコースの提示がかないました。

## 2. 中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況

### <学院全体に関わる事業>

#### (1) キリスト教に基づく教育

##### ア キリスト教教育

キリスト教教育をこども園、中学校、高等学校、大学、大学院までの教育の根本に据えて、全学院的にその充実に取り組みました。本学院の教育の礎である礼拝は、大学においては週3回、中高においては毎朝、こども園（5歳児）においては月1回守られました。

##### イ YWCA、大学聖歌隊、ハンドベルクワイアの活動の活性化

YWCA は学内礼拝における奉仕、大学聖歌隊はセントケア南中山デイサービス、JR 仙台イーストゲートビル等への演奏訪問、ハンドベルクワイアは日本キリスト教団保原教会、広南病院等への演奏訪問などの活動をとおして、キリスト教活動の充実に努めました。

##### ウ キリスト教教育の実践

キリスト教学の講義、聖書科の授業はもとより、様々なキリスト教活動として、キリスト教教育週間時の特別プログラムなどの活動を展開しました。また、教職員を対象とした創立記念講演会、キリスト教講座等を開催しました。その他、2025年12月6日に「第4回クリスマスを祝う音楽会」を開催し、福音主義キリスト教に基づく宮城学院の教育の豊かさを社会に向けて発信しました。

##### エ ボランティア活動

学生・生徒の自主性、創造性が養われ、その働きが社会の一助となるよう助成金を交付し奨励する「ハートフルボランティアサポート事業」を展開し、ボランティア活動への積極的な参加を促しました。

#### (2) 社会貢献

##### ア 福音主義キリスト教に基づく活動の展開

学院長・宗教総主事、大学キリスト教学担当教員を中心とする学院内キリスト者により、それぞれの専門領域をいかして「聖書にはなぜ猫が登場しないのか?」、「『長崎の鐘』平和への祈り」、「絵画、詩、そして信仰～星野富弘の世界をさぐる～」、「東華学校と仙台神学校の分水嶺」、「現代アメリカのキリスト教を読み解く」、「『角兵衛獅子』を読む」、「内村鑑三とプールボー」と題したキリスト教講座を年7回行いました。

##### イ 地域社会の課題の解決

大学において、仙台水産㈱との連携により未利用資源活用商品開発などを実施したほか、仙台市泉区助成事業（いずみ絆プロジェクト）に2件採択されました。また、福島県郡山市の「西田町アグリプロジェクト」に参画した取り組みに対し「第6回学生地域づくり・交流大賞」で最高賞を受賞するなど、被災地支援と地域の発展につながる活動の取組を積極的に行いました。

##### ウ リカレント教育の充実

世代を超えて女性が求める教育を受けられるようにするため、ニーズに対応した生涯学習講座を27講座及び現任保育士研修を全3回開講し、長年蓄積されてきた本学の教育・研究の成果を還元しました。

#### (3) 本学院の社会的使命を果たすための基盤整備

##### ア キリスト教的価値観の共有

毎月の全学院教職員礼拝、クリスマス礼拝や東日本大震災記念礼拝などの特別礼拝に加え、9月18日には創立記念礼拝のほか、日本基督教団横浜指路教会牧師・東京神学大学理事長 藤掛純一先生を講師とし「この最後の者にも」と題した記念講演を行い、キリスト教的価値観

の共有を図りました。また、キリスト教学校教育同盟主催の中学校高等学校中堅教員及び新任教員対象研修会並びに新任事務職員対象研修会に参加しました。

#### イ 内部質保証

内部質保証の方針及び体制に基づき、規程に即した点検・評価を実施しました。また、公益財団法人大学基準協会による認証評価及び外部評価委員会による第三者評価を受審しました。その他、定員の充足は達成できませんでしたので、引き続き定員の充足に向けて取り組みます。

#### ウ 人事

本学院の競争力を上げるために本学院の理念の浸透を図り、教職員の果たすべき役割を明確にし、モチベーションを持って業務に取り組むことができるよう、各種研修会、創立記念講演会などを開催しました。また、教職員の業務負担軽減につながるよう業務効率化に向けてDXワーキンググループを立ち上げ、業務のDXについて検討を開始しました。

#### エ 広報

こども園、中学校、高等学校、大学において、それぞれの取組を適時適切に伝えるため、ホームページやSNSを活用して広報を展開したほか、宮城学院広報 ～Glory to God～を年2回発行し、約4万人の同窓生に発送しました。

#### オ 教育研究を支える基盤の計画的整備

建物の長寿命化を視野に入れた修繕計画に基づき、優先度の高いものから順次施設修繕に着手しました。2025年度は、防水改修及び外壁改修工事（音楽館、学生センター）、講義館耐震工事、経年劣化による設備等の更新工事のほか、中高棟新校舎建設工事、上谷刈校地駐車場整備工事等を実施しました。

##### (ア) 施設設備の整備事業

・ 音楽館屋上防水改修及び外壁改修工事及び監理（2年目）	85,368 千円
・ 学生センター屋上防水改修及び外壁改修工事及び監理（2年目）	105,464 千円
・ 分電盤更新工事及び監理（第三期）	83,600 千円
・ 変圧器更新工事（音楽館・体育館）	11,990 千円
・ 講義館耐震改修工事及び監理（第三期）	117,355 千円
・ 中高棟新校舎建設工事	672,749 千円
・ 上谷刈校地舗装他工事（グラウンド整備含む）	535,150 千円
・ その他	82,443 千円
合 計	1,694,119 千円

##### (イ) 臨時的事業計画（補助金事業）

・ 大学基準協会第四期認証評価手数料	4,510 千円
・ 事務局PC更新	27,663 千円
・ ウイルス対策費用	30,345 千円
・ その他	24,275 千円
合 計	86,793 千円

#### カ 財政基盤の強化

##### (ア) 中高財政の健全化

生徒総数の減少に歯止めがかからない状況が継続しています。中高財政の赤字の改善は、本学院の財政にとって重要な課題の一つであることから、引き続き、中高財政の健全化を目指し、入試結果分析を丁寧に行い、生徒・保護者に選ばれる学校であるために、生徒募

集対策を講じていくことが喫緊の課題となります。

(イ) 収容定員の充足

2026年度大学入試において、入学定員750名を満たすことが困難な見込みとなりました。大学における収容定員充足は、本学院財政基盤安定のために必要不可欠であることから、引き続き、学生確保に向けた各種取り組みを充実させていきます。

(ウ) 競争的資金の積極的な獲得

競争的資金獲得に向けて採択者と申請予定者の懇談会を実施し申請促進につながる機会を設けた結果、申請数21件、採択数3件となりました。引き続き、競争的資金獲得に向けた取り組みを充実させていきます。

(エ) 寄付金の獲得

創立140周年記念事業募金として、中高新校舎（教室棟）建築、上谷川駐車場・グラウンド整備事業を掲げ募金事業を展開しました。本学院の役員、教職員、同窓生、保護者など、多くの皆様のご賛同を得て、2025年度の募金総額は25,147,040円となりました。

(オ) 資産運用の推進

2025年度資金運用計画において、目標利回りを1.1%に設定して資金運用を行ったところ、利回りは1.17%となりました。2025年度は、ロシア・ウクライナ情勢の影響により金融市場の先行きが不透明な状況が続いたことから、償還後の再投資先の選定については慎重な対応を取らざるを得ませんでした。

(4) 同窓会との連携

同窓会が主催する5月開催の第43回ホームカミングデーSpring、9月開催の第43回ホームカミングデーAutumnのほか、高等学校コース会に参加しました。その他、クリスマスを祝う音楽会への参画など、本学院の貴重な理解者であり支援者である同窓会との連携に努めました。

(5) その他

ア 危機管理体制の充実

自然災害、感染症、その他有事を想定した危機管理体制の充実を図り、危機管理マニュアル（クマ出没対策編）の制定を行いました。また、2014年度から実施してきた全学生・生徒・園児、全教職員参加による「全学院総合防災訓練」を実施し、通常の避難訓練のほか、VR（仮想現実）による地震災害の疑似体験及び災害時対応研修、アルファ米の調理体験等を実施し、約1,200名が参加しました。

イ 管理運営体制の強化

(ア) 法人の経営・運営体制等の改善

私立学校法改正に伴い改正した寄附行為及び関連規程に基づき、理事・理事会、監事及び評議員・評議員会の権限分配を整理し、適切な運営に努めました。また、内部統制システム整備の基本方針に基づき、必要となる対応を行いました（詳細P43参照）。

(イ) 監査体制の強化

内部監査では、監査項目として業務監査並びに会計監査を設け、業務監査では共通項目、部署固有項目を設定し、学院内規程を含めたコンプライアンスへの取組の適切性と業務運営の合理性及び効率性を中心に検証を行いました。監事監査は、上半期・下半期の現金預金有価証券の監査、予算案・決算案等の監査を実施するとともに、「ウイルス感染関係」、「内部統制システム関係」及び「中期計画の策定関係」に関する法人部門の対応について確認監査を行いました。公認会計士監査は年7回（延べ11日）、定期監査、現金実査確認の監査、決算監査を行い、常任理事会構成員と監事との合同懇談会を行うなど、監査充実に向けて取り組みました。

(ウ) 職員の人材育成

職員の職務遂行能力及び資質向上を目指し、中堅・若手職員対象に業務意識向上につながる研修、管理職対象に考課者研修等を実施するなど、階層別並びに目的別に研修を行いました。あわせて、オンデマンド研修を活用して職員のキャリア及びスキルに応じた知識の習得やレベルの向上を目指した職員の人材育成に努めました。また、事務職員全体研修のテーマを『業務のDX推進』として実施し、第一部では星薬科大学管財部情報システム担当者による「DXツール等を使った業務のセルフマネジメント」と題して他大学における取り組み事例に関する講演、第二部では「ChatGPTの使い方セミナー」を受講し、実際に生成AIを体験したうえで、各課室における業務改善の可能性について意見交換を行いました。

#### ウ 創立140周年記念事業計画

##### (ア) 中高新校舎（教室棟）建築

生徒の学習・生活環境を整備するため、2027年2月の竣工に向けて、中高新校舎（教室棟）建築を開始しました。

##### (イ) 上谷刈駐車場・グラウンド整備事業

2024年度に取得した上谷刈校地に学生用駐車場及び多目的グラウンドの整備を行い、2026年4月に供用を開始します。

#### エ ランサムウェア感染

2025年5月、本学院へのサイバー攻撃により、複数のサーバ等がランサムウェアに感染しました。原因は、ファイアーウォールの脆弱性を利用した学内ネットワーク侵入によるものです。これを受けて、次世代型ウイルス対策ソフト導入によるウイルス対策強化及び個人情報等の管理データクラウド化による情報漏洩対策を講じました。

## <キリスト教センターに関する事項>

キリスト教センターでは、以下のとおり事業を実施しました。

- (1) 全学院の年度聖句「あなたの御言葉は、わたしの道の光 わたしの歩みを照らす灯。」(詩編 119 編 105 節) の学内掲示及び刊行物への掲載を行いました。
- (2) 全学院教職員礼拝(原則毎月第 3 水曜日 16:30~17:00) の定期礼拝(4/23、5/21、6/18、7/16、10/15、11/19、2/18) のほか、特別礼拝として、創立記念礼拝(9/18)、新年礼拝(1/5)、東日本大震災追悼記念礼拝(3/11)を行いました。
- (3) クリスマス事業としてクリスマス・チャペルコンサート(12/6)、公開クリスマス礼拝(12/23)を行いました。そのほか、クリスマス・キャンパス装飾(11/4~1/5)、クリスマス・イルミネーション点灯式(11/17)、宮城学院クリスマスカードの製作、大学宗教センターと合わせてクリスマス献金(12/1~12/23)を実施しました。
- (4) キリスト教講座は 7 回(6/24、7/11、10/1、11/18、1/27、3/2、3/5)開催しました。
- (5) ハートフルボランティアサポート事業として、団体の募集、審査を行い、大学 5 グループ、中高 3 グループに助成金を交付し、ボランティア活動を支援しました。また、活動報告会は開催せず、報告書を刊行しました。
- (6) 学院内外の担当者が一堂に会する礼拝説教者奏楽者懇談会(2/12)を開催しました。
- (7) 刊行物として、宮城学院教職員礼拝説教集『GLORY TO GOD』(92 号、93 号、94 号)、『礼拝ガイド 2026』、『ハートフルボランティア報告書 2025』を作成し、教職員や関係機関に寄贈・送付しました。
- (8) 大学 YWCA は、公開クリスマス礼拝及び大学クリスマス礼拝でのキャンドルサービス・献金奉仕を実施しました。
- (9) 大学ハンドベルクワイアは、日本ハンドベル連盟東北フェスティバル(7/13)に参加しました。ハンドベルクワイアコンサート(10/12)を開催し、公開クリスマス及び大学クリスマス礼拝など学内外にて演奏をしました。
- (10) 大学聖歌隊は、第 5 回定期演奏会(10/11)、ミニコンサート(12/7)など学内外で演奏しました。NHK より取材を受け、「てれまさ(12/3 生放送)」に出演しました。公開クリスマスではキャンドルサービスや賛美演奏の奉仕をしました。

## <資料室に関する事項>

### (1) 資料の整理・保管、調査・研究及び情報の提供・公開

#### ア 資料の整理・保管

- ・「天にみ栄え 宮城学院の百年」、「宮城学院 目で見る 120 年」をデータ化しました。
- ・「宮城学院最近 10 年史」1976 年、1987-1996、1997-2006 の 3 冊をデータ化しました。
- ・「1950 年度 学級日誌 音楽科 2 年」(162 枚) をデータ化しました。
- ・「ズーフル書簡」A1~A40 (104 枚) をデータ化しました。

#### イ 資料の調査・研究

- ・「宮城学院新聞」創刊号~第 24 号の書誌及び記事見出しを一覧にしました。

#### ウ 情報の提供・公開

- ・レファレンス 7 件
- ・資料提供、インタビュー申込み 3 件 (学内 2 件・学外 1 件)

### (2) その他

- ・創立記念行事で中学 2 年生に「宮城学院の歴史」について講演を行いました。  
2025 年 9 月 5 日 (金)
- ・大学の授業科目である「リベラルアーツ基礎 D (MG 史)」への授業協力を行いました。
- ・桜ヶ丘古文書プロジェクトの学生に同行し、古文書クリーニング作業体験しました。  
2026 年 2 月 16 日 (月) 於：東北大学災害科学国際研究所内宮城資料ネット事務局
- ・Glory to God vol.173、174 へ寄稿しました。  
「受け継がれていくもの—歴史のこぼればなし—」  
Vol.3 今と昔をつなぐ噴水池、Vol.4 桜ヶ丘のシンボル
- ・『資料室年報第 31 号』を刊行しました。

### Ⅲ. 財務の概要

#### 1. 決算の概要

2025年度は、創立140周年記念事業として中学校高等学校新校舎(教室棟)新築工事を開始したことと、上谷刈校地グラウンド・駐車場整備工事が完了しました。施設設備整備事業として音楽館屋上防水・外壁改修工事(2年目)、学生センター屋上防水・外壁改修工事(2年目)、分電盤更新工事(第3期)、講義館耐震改修工事(第3期)等を、臨時的事業計画として事務局PC更新、除雪用車両購入、GAKUEN RX奨学金等を、大学情報基盤整備事業として大学図書館3階ブラウジングルーム改修、大学講義館4階ラーニング・commons新設工事等を実施しました。

##### (1) 貸借対照表関係

###### ア 貸借対照表の状況と経年比較

貸借対照表は、資産の部、負債の部、純資産の部で構成され、当該年度末の財政状態を表すことを目的としています。

資産の部は、合計24,444,273千円となり、前年度末24,428,282千円から15,991千円増となりました。有形固定資産は前年度末12,212,473千円から1,278,076千円増の13,490,549千円、特定資産は前年度末9,523,170千円から1,047,222千円減の8,475,948千円、その他の固定資産は前年度末328,133千円から41,580千円減の286,553千円となりました。なお、流動資産は前年度末2,364,503千円から173,281千円減の2,191,222千円となりました。

負債の部は、固定負債の長期借入金が254,960千円、流動負債の短期借入金が96,840千円等により負債の部合計は、前年度末2,756,455千円より24,251千円減の2,732,204千円となりました。

純資産の部の基本金は、前年度末25,334,033千円から1,685,332千円増の27,019,365千円となりました。前年度末比で第1号基本金は1,664,673千円増、第3号基本金は20,658千円の増となりました。繰越収支差額の翌年度繰越収支差額は、△5,307,297千円となりました。

資産の部合計24,444,273千円から負債の部合計2,732,204千円を差し引いた純資産の部合計は21,712,069千円となり、純資産構成比率(旧会計基準：自己資金構成比率)は、88.8%(前年度88.7%)となりました。また、運用資産の蓄積度を示す内部留保資産比率は、31.5%(前年度36.2%)となりました。なお、新学校法人会計基準で新設された積立率(運用資産/要積立額)は、学校法人の将来の確定的債務や奨学金の原資となる基金について、どの程度保有資産の裏付けがあるかを示す比率ですが、71.3%(前年度78.3%)となっています。

(単位 千円)

科目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
固定資産	21,836,596	21,960,606	22,126,300	22,063,778	22,253,050
流動資産	2,598,911	2,754,576	2,396,413	2,364,504	2,191,223
資産の部合計	24,435,508	24,715,182	24,522,712	24,428,282	24,444,273
固定負債	1,992,152	1,845,673	1,713,427	1,578,613	1,461,903
流動負債	1,277,938	1,385,220	1,123,783	1,177,842	1,270,301
負債の部合計	3,270,090	3,230,893	2,837,210	2,756,455	2,732,204
基本金	22,887,390	23,099,886	24,300,773	25,334,034	27,019,366
繰越収支差額	△ 1,721,972	△ 1,615,596	△ 2,615,271	△ 3,662,207	△ 5,307,297
純資産の部合計	21,165,418	21,484,290	21,685,502	21,671,827	21,712,069
負債及び純資産の部合計	24,435,508	24,715,182	24,522,712	24,428,282	24,444,273

イ 財務比率の経年比較

	比率	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
1	固定資産構成比率	89.4%	88.9%	90.2%	90.3%	91.0%
2	有形固定資産構成比率	43.8%	42.6%	45.8%	50.0%	55.2%
3	特定資産構成比率	43.8%	44.7%	42.9%	39.0%	34.7%
4	流動資産構成比率	10.6%	11.1%	9.8%	9.7%	9.0%
5	固定負債構成比率	8.2%	7.5%	7.0%	6.5%	6.0%
6	流動負債構成比率	5.2%	5.6%	4.6%	4.8%	5.2%
7	内部留保資産比率	39.6%	41.7%	40.3%	36.2%	31.5%
8	運用資産余裕比率	222.3%	252.2%	251.0%	219.7%	191.5%
9	純資産構成比率	86.6%	86.9%	88.4%	88.7%	88.8%
10	繰越収支差額構成比率	-7.0%	-6.5%	-10.7%	-15.0%	-21.7%
11	固定比率	103.2%	102.2%	102.0%	101.8%	102.5%
12	固定長期適合率	94.3%	94.1%	94.6%	94.9%	96.0%
13	流動比率	203.4%	198.9%	213.2%	200.7%	172.5%
14	総負債比率	13.4%	13.1%	11.6%	11.3%	11.2%
15	負債比率	15.5%	15.0%	13.1%	12.7%	12.6%
16	前受金保有率	333.0%	395.0%	361.4%	367.9%	306.6%
17	退職給与引当特定資産保有率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
18	基本金比率	107.6%	107.1%	107.3%	104.8%	104.3%
19	減価償却比率	59.8%	62.0%	61.4%	63.0%	62.8%
20	積立率	93.1%	94.4%	87.1%	78.3%	71.3%

(2) 事業活動収支計算書関係

ア 事業活動収支計算書の状況と経年比較

事業活動収支計算書は、当該会計年度の収支を経常的な収支と特別な収支(臨時的収支)に区分し、経常的な収支については、本業である教育活動収支と、財務活動を中心とする教育活動外収支に分けて、内容を明らかにするとともに、当該会計年度の基本金組入額を控除して事業活動収入及び事業活動支出の均衡の状態を明らかにすることを目的としています。

2025年度法人全体として、教育活動収支差額は51,503千円、教育活動外収支差額は49,519千円、経常収支差額は101,022千円となりました。以下、各収支について記載します。

教育活動収支については、教育活動収入計は、昨年比171,054千円増の4,857,407千円となり、教育活動支出計は、昨年比72,407千円増の4,805,904千円となりました。教育活動支出の主なものとして、人件費(退職金及び退職給与引当金繰入額を含む)は昨年比106,360千円減の2,465,058千円、教育研究経費(減価償却額を含む)は昨年比156,833千円増の2,009,651千円、管理経費(補助活動事業支出及び減価償却額を含む)は昨年比28,440千円増の328,589千円となりました。教育活動収入計から教育活動支出を差し引いた教育活動収支差額は、昨年比93,126千円増の51,503千円となりました。

教育活動外収支について、教育活動外収入計は、全て受取利息・配当金で昨年比10,892千円減の49,708千円となり、教育活動外支出計は、全て借入金等利息で189千円となっています。

以上により、教育活動外収支差額は、昨年比10,843千円減の49,519千円となっています。

特別収支について、特別収入計は、昨年比41,383千円増の117,435千円となりました。これは、その他の特別収入の内、現物寄贈としてピアノ寄贈53,950千円、施設設備補助金として大

学講義館耐震改修工事に対する私立学校施設整備費補助金の採択による 53,735 千円が主なものです。特別支出計は、178,216 千円となり、賞与引当金特別繰入額が主なものです。以上、特別収入計から特別支出計を差し引いた特別収支差額は△60,781 千円となっています。

基本金組入額について、全体で 1,685,332 千円を組入れました。第 1 号基本金は、主に固定資産取得等によるもので 1,664,673 千円を、第 3 号基本金は、奨学基金 19,559 千円、教育基金 1,100 千円を計画どおり組入れました。

当年度収支差額及び翌年度繰越収支差額について、当年度収支差額は△1,645,090 千円となり、翌年度繰越収支差額は△5,307,296 千円となりました。

(単位 千円)

科目	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	3,861,157	3,819,556	3,661,990	3,483,052	3,399,481
	手数料	50,196	49,469	45,325	39,058	41,996
	寄付金	78,387	96,671	41,215	45,930	51,703
	経常費等補助金	849,157	909,096	895,187	963,907	1,247,804
	付随事業収入	14,108	8,591	5,487	7,161	13,492
	雑収入	267,127	190,954	105,038	147,245	102,931
	教育活動収入計	5,120,132	5,074,337	4,754,241	4,686,353	4,857,407
	事業活動支出の部					
	人件費	2,951,512	2,739,576	2,615,260	2,571,418	2,465,058
	教育研究経費	1,793,438	1,738,189	1,786,233	1,852,818	2,009,651
	管理経費	290,110	279,347	252,539	300,149	328,589
	徴収不能額等	9,473	6,105	1,536	3,591	2,606
	教育活動支出計	5,044,533	4,763,218	4,655,568	4,727,976	4,805,904
	教育活動収支差額	75,599	311,120	98,673	△ 41,623	51,503
	教育活動外収支	事業活動収入の部				
受取利息・配当金		95,808	70,112	66,689	60,600	49,708
その他の教育活動外収入		0	0	0	0	0
教育活動外収入計		95,808	70,112	66,689	60,600	49,708
事業活動支出の部						
借入金等利息		432	351	288	238	189
その他の教育活動外支出		0	0	0	0	0
教育活動外支出計		432	351	288	238	189
教育活動外収支差額		95,377	69,762	66,401	60,362	49,519
経常収支差額		170,976	380,881	165,074	18,739	101,022
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	0	0	55	0
	その他の特別収入	8,733	10,827	51,075	75,997	117,435
	特別収入計	8,733	10,827	51,075	76,052	117,435
事業活動支出の部						

	資産処分差額	195,306	70,519	14,912	100,894	13,181
	その他の特別支出	1,472	2,318	24	7,572	165,035
	特別支出計	196,778	72,837	14,936	108,466	178,216
	特別収支差額	△ 188,045	△ 62,009	36,139	△ 32,414	△ 60,781
	基本金組入前当年度収支差額	△ 17,068	318,872	201,213	△ 13,675	40,241
	基本金組入額合計	△ 194,800	△ 212,496	△ 1,200,887	△ 1,677,359	△ 1,685,332
	当年度収支差額	△ 211,868	106,376	△ 999,674	△ 1,691,034	△ 1,645,091
	前年度繰越収支差額	△ 1,510,104	△ 1,721,972	△ 1,615,596	△ 2,615,271	△ 3,662,207
	基本金取崩額	0	0	0	644,099	0
	翌年度繰越収支差額	△ 1,721,972	△ 1,615,596	△ 2,615,271	△ 3,662,207	△ 5,307,298

(参考)

事業活動収入計	5,224,674	5,155,277	4,872,006	4,823,005	5,024,551
事業活動支出計	5,241,742	4,836,405	4,670,793	4,836,680	4,984,309

#### イ 財務比率の経年比較

	比率	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
1	人件費比率	56.6%	53.3%	54.2%	54.2%	50.2%
2	人件費依存率	76.4%	71.7%	71.4%	73.8%	72.5%
3	教育研究経費比率	34.4%	33.8%	37.1%	39.0%	41.0%
4	管理経費比率	5.6%	5.4%	5.2%	6.3%	6.7%
5	借入金等利息比率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
6	事業活動収支差額比率	-0.3%	6.2%	4.1%	-0.3%	0.8%
7	基本金組入後収支比率	104.2%	97.8%	127.2%	153.8%	149.3%
8	学生生徒等納付金比率	74.0%	74.2%	76.0%	73.4%	69.3%
9	寄付金比率	1.6%	2.0%	0.9%	1.1%	2.3%
10	経常寄付金比率	1.5%	1.9%	0.9%	1.0%	1.1%
11	補助金比率	16.3%	17.7%	19.3%	21.4%	25.9%
12	経常補助金比率	16.3%	17.7%	18.6%	20.3%	25.4%
13	基本金組入率	3.7%	4.1%	24.6%	34.8%	33.5%
14	減価償却額比率	8.0%	8.4%	9.1%	9.3%	9.2%
15	経常収支差額比率	3.3%	7.4%	3.4%	0.4%	2.1%
16	教育活動収支差額比率	1.5%	6.1%	2.1%	-0.9%	1.1%

### (3) 資金収支計算書関係

#### ア 資金収支計算書の状況と経年比較

資金収支計算書は、当該会計年度に行う諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当該会計年度における支払資金(現金及びいつでも引き出すことができる預貯金をいう。)の収入及び支出のてん末を明らかにすることを目的としています。

2025 年度の資金収入は、前年度繰越支払資金 2,087,672 千円を含めた資金収入全体が 8,979,272 千円となり、前年度と比べて 235,363 千円減となりました。翌年度繰越支払資金は、1,966,389 千円となり、前年度と比較し 121,283 千円減となりました。

収入の部では、学生生徒等納付金収入、手数料収入は事業活動収支計算書の収入と同じです。新入生数に係る納付金等の前受金収入は、昨年比 73,857 千円増の 641,255 千円となりまし

た。その他の収入には、各引当特定資産からの取崩収入等が含まれています。

支出の部では、人件費支出には退職金支出 118,745 千円が含まれており、借入金等返済支出は、さくら寮の建設資金借入返済を含め 96,840 千円となっています。施設関係支出は 1,562,693 千円で、前年度と比べ 73,401 千円増となりました。設備関係支出は 149,159 千円で、前年度比 76,807 千円増となりました。資産運用支出は、減価償却引当資産等に 603,304 千円を繰入れしました。

(単位 千円)

収入の部	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
学生生徒等納付金収入	3,861,157	3,819,556	3,661,990	3,483,052	3,399,481
手数料収入	50,196	49,469	45,325	39,058	41,996
寄付金収入	74,785	93,724	38,500	43,874	58,106
補助金収入	851,812	913,991	939,230	1,033,970	1,301,539
資産売却収入	70,010	0	0	180	0
付随事業・収益事業収入	46,681	40,702	33,189	38,828	45,254
受取利息・配当金収入	95,469	70,112	66,689	60,600	49,708
雑収入	266,121	189,943	106,477	146,840	101,844
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	678,052	629,277	603,467	567,398	641,255
その他の収入	1,157,203	805,914	1,423,623	2,442,413	1,990,611
資金収入調整勘定	△ 928,952	△ 883,013	△ 783,569	△ 822,451	△ 738,194
前年度繰越支払資金	1,847,136	2,258,055	2,485,509	2,180,873	2,087,672
収入の部合計	8,069,670	7,987,730	8,620,430	9,214,635	8,979,272

支出の部	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
人件費支出	3,012,744	2,767,838	2,629,290	2,611,713	2,486,287
教育研究経費支出	1,399,961	1,349,727	1,379,980	1,424,228	1,590,525
管理経費支出	268,567	260,332	228,096	290,661	304,496
借入金等利息支出	432	351	288	238	189
借入金等返済支出	132,840	112,840	112,840	112,840	96,840
施設関係支出	196,866	267,305	1,128,856	1,489,292	1,562,693
設備関係支出	102,463	58,888	79,085	72,352	149,159
資産運用支出	775,153	743,509	571,809	1,165,509	603,304
その他の支出	310,999	505,848	661,645	433,149	530,068
資金支出調整勘定	△ 388,410	△ 564,417	△ 352,332	△ 473,019	△ 310,678
翌年度繰越支払資金	2,258,055	2,485,509	2,180,873	2,087,672	1,966,389
支出の部合計	8,069,670	7,987,730	8,620,430	9,214,635	8,979,272

#### (4) 活動区分資金収支計算書関係

##### ア 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

活動区分資金収支計算書は、資金収支計算書を「1 教育活動による資金収支」「2 施設整備等活動による資金収支」「3 その他の活動による資金収支」の3つの活動区分別に表示した計算書で、活動ごとの収支状況を明らかにすることを目的としています。

教育活動による資金収支について、教育活動資金収支差額は 343,411 千円となり、前年度末

476,434千円から133,023千円増となりました。

施設整備等活動資金収支について、施設整備等活動収支差額は△459,439千円となり、前年度末△567,782千円から108,343千円増となりました。

その他の活動による資金収支について、その他の活動による資金収支差額は△5,254千円となり、前年度末△1,853千円から3,401千円増となりました。

支払資金の増減額は、△121,282千円となり、前年度末△93,201千円から28,081千円増となりました。翌年度繰越支払資金は、1,966,389千円となり、前年度と比較し121,283千円減となりました。

(単位 千円)

科目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	5,147,190	5,101,668	4,778,062	4,714,335	4,885,049
教育活動資金支出計	4,679,800	4,375,578	4,237,342	4,319,029	4,380,414
差引	467,390	726,089	540,720	395,306	504,635
調整勘定等	36,366	△ 33,176	35,539	81,128	△ 161,224
教育活動資金収支差額	503,755	692,914	576,259	476,434	343,411
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	353,741	159,289	1,014,077	2,045,176	1,594,225
施設整備等活動資金支出計	743,497	801,960	1,654,241	2,538,159	2,187,495
差引	△ 389,756	△ 642,671	△ 640,164	△ 492,983	△ 593,270
調整勘定等	76,780	259,604	△ 230,692	△ 74,799	133,831
施設整備等活動資金収支差額	△ 312,977	△ 383,067	△ 870,856	△ 567,782	△ 459,439
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）	253,894	190,779	309,847	△ 91,348	△ 116,028
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	787,613	447,697	319,828	376,361	290,281
その他の活動資金支出計	567,473	530,089	329,868	378,214	295,535
差引	220,140	△ 82,392	△ 10,039	△ 1,853	△ 5,254
調整勘定等	0	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額	220,140	△ 82,392	△ 10,039	△ 1,853	△ 5,254
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）	146,888	410,919	227,454	△ 93,201	△ 121,282
前年度繰越支払資金	1,847,136	2,258,055	2,485,509	2,180,873	2,087,672
翌年度繰越支払資金	2,258,055	2,485,509	2,180,873	2,087,672	1,966,389

イ 財務比率の経年比較

	比率	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
1	教育活動資金収支差額比率	9.8%	13.6%	12.1%	10.1%	7.0%

## 2. その他

### (1) 資金運用の状況

#### ア 運用目的

学校法人宮城学院資金運用管理規程に基づき、資金を安全・有効かつ適切に運用することにより、中長期的な財政基盤の強化を図ると共に、教育研究活動の発展に資することを目的としています。

#### イ 運用目標

運用目標は、中長期計画及び毎年度の経常予算において計画される運用収入の確保と運用資産価値の維持を基本として毎年度設定しています。

#### ウ 運用方針

学校法人宮城学院資金運用管理規程に定める資金運用基本方針に則り、「資産運用は元本の安全・確実を第一とし」、流動性リスク（市場流通量）、信用リスク（格付）、クーポン変動リスク（為替・金利変動）、期間リスク（長期保有）等を考慮し、複数の金融機関・金融商品への分散投資によりリスク分散を図りながら運用を行っています。

#### エ 資金運用に関するガバナンス体制

資金運用担当責任者が、年度当初に資金の運用にあたり運用方針、運用目標、資産配分及び金融商品の選択、取引金融機関等を含めた資金運用計画案を策定し、理事会の承認を得て資金運用を実施しています。

運用にあたっては、学校法人宮城学院資金運用管理規程及び資金運用計画に基づき元本の安全・確実を最優先とし、運用状況について、理事会に対して年1回、常任理事会に対して半期毎に報告することを義務付けています。

#### オ 運用体制

資金運用にあたっては、理事長が資金運用全体を統括し、その下に資金運用管理責任者及び資金運用担当責任者を置く体制をとっています。

資金運用管理責任者は、運用管理業務に関する権限を有し、資金運用担当責任者は、運用判断のための必要な情報収集、運用実行計画の策定、運用銘柄の選定及び取引等の実務を行っています。

#### カ 本年度の運用の概況

2025年度資金運用計画において、目標利回りを1.1%に設定して資金運用を行ったところ、利回りは1.17%となりました。2025年度は、ロシア・ウクライナ情勢の影響により金融市場の先行きが不透明な状況が続いたことから、償還後の再投資先の選定については慎重な対応を取らざるを得ませんでした。

(有価証券の状況)

種類	貸借対照表計上額	時価	差額
債券	3,996,784,186	3,674,983,900	△321,800,286
時価のない有価証券	2		
有価証券合計	3,996,784,188		

### (2) 学校債の状況

学校債は発行していません。

### (3) 寄付金の状況

募金総額は、540件 25,147,040円となりました。

(4) 補助金の状況

主な補助金の内容及び使用実績等については、「補助金の状況」に記載しています。

(5) 収益事業の状況

収益事業は行っていません。

### 3. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針、対応方策

(1) 経営状況の分析

本年度の経営状況については、事業活動収入は前年度比 4.1%増の 5,024,551 千円、経常収入は前年度比 3.4%増の 4,907,115 千円となりました。事業活動収入における各収入の構成比は、学生生徒納付金収入が 67.7%、手数料が 0.8%、寄付金が 1.0%、経常費補助金が 24.8%、付随事業収入が 0.3%、雑収入が 2.1%、受取利息・配当金が 1.0%、その他の特別収入が 2.3%となっています。収入のうち、学生生徒納付金収入は学生数の減少により前年度比 2.4%減となりましたが、経常費補助金は、高等教育修学支援制度の適用拡大により前年度比 29.4%増となりました。

事業活動支出は前年度比 3.0%増の 4,984,309 千円、経常支出が前年度比 1.6%増の 4,806,093 千円となりました。事業活動支出における各支出の構成比は、人件費が 49.5%、教育研究経費が 40.3%、管理経費が 6.6%、徴収不能額等が 0.05%、借入金利息が 0.00%、資産処分差額が 0.26%、その他の特別支出が 3.3%となっています。支出のうち、人件費は教職員の減少により前年度比 4.2%減となりましたが、教育研究経費は、高等教育修学支援制度の適用拡大による奨学金の増加等により前年度比 8.4%増となりました。なお、詳細については決算の概要に記載しています。

(2) 経営上の成果と課題

経営上の成果としては、当初予算の策定後に入学者数が確定したことを踏まえ、各部門に対し予算の見直しを求め、補正予算を編成するなど、適切な予算執行に努めました。その結果、学校法人が経営判断上重視している各収支差額のうち、教育活動収支差額、経常収支差額、基本金組入前当年度収支差額が収入超過となりました。

課題としては、入学者が大学部門においては前年度を下回り、中学校及び高等学校部門においては前年度とほぼ同数にとどまりました。長寿命化計画に伴う設備更新等による多額の修繕費等の支出が今後も見込まれることから、安定した収入確保の観点からも入学者の確保が重要と考えています。

(3) 今後の方針・対応方策

本学院は、2026年度を初年度とする第6次中期計画を策定しました。本計画では、建学の精神に基づく中期ビジョンの下、「教育・研究」「社会貢献」「経営」の各分野における基本戦略及び個別戦略を定めています。各設置学校においてこれらの戦略に基づく取り組みを着実に推進し、目標の達成を図ります。

これらの取り組みを通じて、学校運営の主要な財源である学生生徒等納付金、補助金の安定的な確保・増収に努めます。限られた資源を有効に活用し、収支の安定化及び持続的な財務基盤の強化を目指します。

#### IV. 内部統制システムの整備及び運用状況の概要

項目	これまでの整備状況	法改正に伴う対応状況	
理事の職務の執行が法令及び寄附行為に適合することを確保するための体制	・コンプライアンス管理規程の制定	・「内部統制システム整備の基本方針」の制定(2024.11.26 理事会承認) ・理事会運営規程の改定(2025.1.28 理事会承認)	
省令定める体制	一 理事の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制	・文書取扱規程の制定	
	二 損失の危険の管理に関する規程その他の体制	・危機管理規程、マニュアルの制定 ・防火・防災管理規程の制定 ・情報システム管理運用基本規程、情報システム運用・管理規程の制定	・全学院防災訓練の継続実施(2025.10.16 実施) ・役職員に対するリスク管理研修の実施
	三 理事の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制	・理事会運営規程、理事等職務権限規程の制定 ・事務組織規程における分掌の規定 ・顧問(弁護士・社会保険労務士)との契約(外部専門家の助言を受ける体制)	・理事職務権限規程の見直し(2025.1.28 理事会承認)
	四 職員の職務の執行が法令及び寄附行為に適合することを確保するための体制	・コンプライアンス管理規程の制定 ・ハラスメント防止研修毎年実施 ・内部監査室の設置 ・内部監査規程の制定	・職員に対するリスク管理教育・研修の継続的な実施 ・内部監査室担当の育成
	五 監事はその職務を補助すべき職員を置くことを求めた場合における当該職員に関する事項	・監事監査規程により規定	・監事監査規程の改定(2025.3.25 理事会承認)
	六 前号の職員の理事からの独立性に関する事項	・定めなし	・内部統制システム整備の基本方針に明記(2024.11.26 理事会承認)
	七 監事の第五号の職員に対する指示の実効性の確保に関する事項	・定めなし	・内部統制システム整備の基本方針に明記(2024.11.26 理事会承認)
	八 理事及び職員が監事に報告をするための体制その他の監事への報告に関する体制	・定めなし	・監事監査規程の改定による明記(2025.3.25 理事会承認) ・公益通報者保護規程の制定(2026.3.24 常任理事会承認)
	九 前号の報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制	・定めなし	・監事監査規程の改定による明記(2025.3.25 理事会承認) ・公益通報者保護規程の制定(2026.3.24 常任理事会承認)
	十 監事の職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項	・定めなし	・監事監査規程の改定による明記(2025.3.25 理事会承認)
	十一 その他監事の監査が実効的に行われることを確保するための体制	・内部監査室との連携 ・公認会計士と内部理事、監事との懇談会を年1回実施 ・監事と公認会計士の打ち合わせを適宜実施	・理事長と監事の定期的な会合の実施

## V. 資料

### 1. 理事会、評議員会の開催状況

#### (1) 理事会の開催状況

開催年月日	議 題
2025（令和7）年 4月7日（火）	1. 理事及び評議員候補者の選考手続きについて
4月22日（火）	1. 理事候補者選出及び評議員選任について 2. 評議員会の招集について
5月13日（火）	1. 理事の選任について 2. 学院長候補者選考委員会の設置について 3. 学長候補者選考委員会の設置について
5月27日（火）	1. 2024年度事業報告承認の件 2. 2024年度決算承認の件 3. 2025年度入試結果分析承認の件 4. 学芸学部英語文化コミュニケーション学科を設置する計画承認の件 5. 学芸学部英文学科の募集停止承認の件 6. 宮城学院女子大学学則の改定承認の件 7. 大学納付金の改定承認の件 8. 理事の競業取引承認の件
5月27日（火）	1. 理事長選任の件 2. 常務理事選任の件 3. 理事会の運営体制等承認の件
7月29日（火）	1. 2026年度学科改組計画の一部修正承認の件
9月16日（火）	1. 評議員会の招集承認の件
9月30日（火）	1. 学院長選任に関する規程の一部改正承認の件 2. 次期学院長の選任承認の件 3. 第5次中期計画中間総括承認の件
10月14日（火）	1. 中高新校舎（教室棟）建築工事に係る契約締結承認の件
11月25日（火）	1. 学長の選任承認の件 2. 2026年度予算編成方針案承認の件 3. 中高新校舎（教室棟）建築工事に係る契約書の修正承認の件
2026（令和8）年 1月13日（火）	1. 2025年度補正予算（案）承認の件 2. 宮城学院中学校高等学校学則の改定承認の件 3. 評議員会の招集承認の件
1月27日（火）	1. 2025年度補正予算（案）承認の件
3月10日（火）	1. 評議員会の招集承認の件 2. 宮城学院中学校学則の改正承認の件 3. 宮城学院高等学校学則の改正承認の件 4. 宮城学院女子大学学長選考規程の改正承認の件 5. 名誉教授候補者の推薦承認の件
3月24日（火）	1. 寄附行為改正承認の件 2. 理事候補者承認の件

	<ul style="list-style-type: none"> <li>3. 第6次中期計画（案）承認の件</li> <li>4. 2026年度事業計画（案）承認の件</li> <li>5. 2026年度予算（案）承認の件</li> <li>6. 大学学則改定承認の件</li> <li>7. 宮城学院女子大学教授会規程の改正承認の件</li> <li>8. 役員に対する補償契約承認の件</li> <li>9. 役員賠償責任保険契約承認の件</li> </ul>
--	---

## (2) 常任理事会の開催状況

開催年月日	議 題
2025（令和7）年 4月7日（月）	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 2025年度大学教務嘱託職員（食品栄養学科助手）の採用について</li> <li>2. 学内3組合の質問への回答について</li> <li>3. 今後の人件費抑制・削減計画について</li> </ul>
4月15日（火）	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 大学納付金の改定について</li> <li>2. 大学学科改組に伴う2026年度以降の教員人員配置について</li> <li>3. 宮城学院女子大学学長選考規程の改正について</li> <li>4. 2025年度資金運用計画について</li> <li>5. 事務局PCの機器更新に係る契約について</li> <li>6. 2024年度宮城学院ガバナンス・コード遵守状況について</li> <li>7. 2024年度大学経常費補助金の総括について（報告）</li> <li>8. 2024年度中高運営費補助金の総括について（報告）</li> </ul>
4月22日（火）	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 2025年度子ども園臨時職員（保育補助）の募集について</li> <li>2. 2025年度子ども園臨時職員（給食調理員）の勤務時間変更について</li> </ul>
5月13日（火）	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 2024年度事業報告（案）について</li> <li>2. 専任事務職員の退職について</li> </ul>
5月20日（火）	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 2024年度事業報告について</li> <li>2. 2024年度決算について</li> <li>3. 2025年度入試結果分析について</li> <li>4. 学芸学部英語文化コミュニケーション学科を設置する計画について</li> <li>5. 学芸学部英文学科の募集停止について</li> <li>6. 宮城学院女子大学学則の改定について</li> <li>7. 第6次中期計画策定助言に係る業務委託について</li> </ul>
6月10日（火）	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 2026年度大学教員採用計画の申請について</li> <li>2. 2025年度一時金について</li> <li>3. 情報教室PC更新について</li> </ul>
6月24日（火）	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 学内3組合への発出文書（2024年度一時金）について</li> <li>2. 学内3組合への発出文書（今後の人件費抑制・削減計画）について</li> <li>3. 講義館耐震改修工事（第三期）の契約について</li> </ul>
7月1日（火）	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 2025年8月事務局人事について</li> </ul>
7月8日（火）	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 2026年度大学教員採用計画の申請について</li> <li>2. 2026年度再雇用について</li> <li>3. 宮城県との基盤技術高度化支援に係る相互協力協定書の締結について</li> <li>4. 「令和6年度少子化時代を支える新たな私立大学等の経営改革支援」（メ</li> </ul>

	ニュー1 少子化時代をキラリと光る教育力で乗り越える、私立大学等戦略的経営改革支援)に係る事業計画(予算案)の修正について
7月15日(火)	1. 中高学業特待奨学金制度の見直しについて
7月22日(火)	(報告事項のみ)
7月29日(火)	1. 2027年度学科改組に係る大学教員採用計画について
8月5日(火)	1. 2025年度中高スクールカウンセラーの採用承認の件 2. 2026年度大学教員採用計画承認の件 3. 2026年度こども園専任教員採用計画承認の件 4. 「宮城学院女子大学教育環境と人権を守るためのガイドライン」及び「宮城学院女子大学教育環境と人権を守るためのガイドライン運用細則」の改正承認の件 5. サテライトキャンパスの設置及び社会連携センター規程の改正承認の件 6. 大学教務システムのサーバ移設承認の件 7. 創立140周年記念事業募金対策承認の件 8. 3組合への回答承認の件 9. キャンパス整備計画トイレ改修設計業務契約締結承認の件
8月26日(火)	1. 「宮城学院女子大学教育環境と人権を守るためのガイドライン」及び「宮城学院女子大学教育環境と人権を守るためのガイドライン運用細則」の改正承認の件(継続) 2. 育児・介護休業法改正に伴う関連規程の改正承認の件 3. 宮城県最低賃金の改定に伴う学内対応承認の件 4. 3組合への回答承認の件
9月9日(火)	1. 事務嘱託職員の退職承認の件 2. コンプライアンス管理規程の一部改正承認の件
9月16日(火)	1. コンプライアンス管理規程の一部改正承認の件(継続)
9月22日(火)	1. 2027年度大学特命教員(文化観光ビジネス学科(仮称))「経済学」担当の採用承認の件 2. 2026年度大学教員採用計画の申請承認の件 3. 2026年度大学教員特別研修休暇承認の件 4. 大学図書館1階空調設備工事の契約承認の件 5. セキュリティ対策に伴うウイルスソフトの導入及び管理データのクラウド化承認の件 6. 大学非常勤講師の無期労働契約転換承認の件
9月30日(火)	1. 大学臨時職員(体育実技授業補助員)の退職承認の件
10月14日(火)	1. 事務嘱託職員の退職承認の件 2. 2026年度大学一号特任教員(食品栄養学科)「生化学」担当の採用承認の件 3. 2026年度大学一号特任教員(食品栄養学科)「公衆栄養学」担当の採用承認の件 4. 2026年度大学二号特任教員(日本文学科)「図書館情報学」担当の採用承認の件 5. 宮城学院女子大学附属認定こども園給与規程の一部改正承認の件 6. 外国人留学生の授業料減免措置に関する内規及び宮城学院女子大学大学院

	外国人留学生の授業料減免措置に関する内規の廃止承認の件
10月28日(火)	1. 上谷刈校地駐車場ゲート及び監視カメラ設置工事の契約承認の件
11月11日(火)	1. 2026年度大学専任教員(心理行動科学科)「応用認知心理学」担当の採用承認の件 2. 2026年度大学専任教員(一般教育部)「健康スポーツ科学」担当の採用承認の件 3. 2026年度大学一号特任教員(教育学科)「特別支援教育」担当の採用承認の件 4. 2026年度大学一号特任教員(音楽科)「音楽学」担当の採用承認の件 5. 2026年度大学二号特任教員(音楽科)「管楽器」担当の採用承認の件 6. 2026年度大学二号特任教員(一般教育部)「日本語教育学」担当の採用承認の件 7. 2026年度こども園専任教員の採用承認の件 8. 2025年度臨時職員(実験・実習系授業補助員)採用計画承認の件 9. 株式会社仙台水産との産学連携協定締結承認の件 10. 一般社団法人食のみやぎ応援団との産学連携協定締結承認の件 11. ビクトリア大学(カナダ)との協定締結承認の件 12. ロータリー協鉄筋コンクリート製床解体工事の契約承認の件
11月18日(火)	1. 2026年度こども園採用計画承認の件
11月25日(火)	1. 大学教員(一号特任教員)の退職承認の件
12月9日(火)	1. 2026年度大学一号特任教員(教育学科)「養護実践学」担当の採用承認の件 2. 2026年度専任事務職員採用計画承認の件 3. 2025年度こども園嘱託保育教諭(産休代替)の採用計画承認の件 4. 宮城学院女子大学教授会役員等選任規程の改正承認の件 5. 上谷刈校地北環状側門扉新設工事の契約承認の件 6. 家政館D405多目的学習スペース改修工事の契約承認の件
12月23日(火)	1. 2026年度大学専任教員(教育学科)「教育学」担当の採用承認の件 2. 2026年度大学一号特任教員「こども園園長」担当の採用承認の件 3. 2025年度こども園嘱託保育教諭(産休代替)の採用承認の件 4. 2026年度大学教員採用計画承認の件 5. 2026年度大学教務嘱託職員等採用計画承認の件 6. 2026年度中高契約教員採用計画承認の件 7. 2026年度中高等学校生活支援コーディネーターの採用計画承認の件 8. 2026年度中高スクールカウンセラーの採用計画承認の件 9. 2026年度中高教務嘱託職員(理科実験助手)の採用計画承認の件 10. セント・ラ・サール大学(フィリピン)との協定締結承認の件 11. 講義館普通教室C404及びC405改修工事の契約承認の件 12. 大学図書館ブラウジングルーム改修工事の契約承認の件 13. 人文館A448メディア・コミュニケーション・スペース改修工事の契約承認の件
2026(令和8)年 1月6日(火)	1. 2026年度中高スクールカウンセラーの採用計画承認の件(継続) 2. 2026年度事務局嘱託職員等の採用計画承認の件

1月13日(火)	1. 専任事務職員の退職承認の件
1月20日(火)	1. 大学専任教員の退職承認の件 2. 2026年度こども園専任教員(保育教諭)の採用承認の件 3. 2026年度事務局嘱託職員の契約更改承認の件 4. 2025年度退職非常勤講師承認の件 5. こども園非常勤保育教諭の退職承認の件 6. 宮城学院女子大学自己点検・評価規程の改正承認の件
1月27日(火)	1. 2025年度大学役員の交代承認の件
2月10日(火)	1. 情報教室改修に伴う視聴覚設備更新の契約承認の件 2. 情報教室改修に伴う学習机及びイス購入の契約承認の件 3. 井戸用水中ポンプ緊急修繕工事の契約承認の件
2月17日(火)	1. 2026年度大学学生相談室カウンセラーの採用承認の件 2. 2026年度大学基幹教員採用計画承認の件 3. 2026年度大学教員採用計画承認の件 4. 2026年度こども園臨時職員(保育補助)の採用計画承認の件 5. 宮城学院女子大学教務センター規程の改正承認の件
2月24日(火)	1. 中高専任教員の退職承認の件 2. 2025年度こども園嘱託保育教諭(産休代替)の退職承認の件 3. 2026年度こども園嘱託保育教諭の契約更改承認の件 4. 2025年度こども園退職者承認の件 5. 2026年4月事務局人事承認の件 6. 2026年2月事務局人事承認の件 7. 宮城学院女子大学宗教センター規程の廃止及び宮城学院女子大学キリスト教センター規程の制定承認の件 8. 実践女子学園中学校高等学校との転入学受入れに関する協定の締結承認の件 9. 2026年度宮城学院中学校高等学校執行体制承認の件
3月3日(火)	1. 2026年度大学一号特任教員(食品栄養学科)「応用栄養学」担当の採用承認の件 2. 2026年度大学一号特任教員(食品栄養学科)「食品衛生学」担当の採用承認の件 3. 2026年度大学一号特任教員(心理行動科学科)「スポーツ心理学」担当の採用承認の件 4. 2026年度大学教務嘱託職員の採用承認の件 5. 2026年度こども園専任教員(保育教諭)の採用承認の件 6. 2026年度中高数学科契約教員採用計画承認の件 7. 大学昇任人事承認の件 8. 宮城学院女子大学大学院研究科長選考規程の改正承認の件 9. 宮城学院女子大学教授会役員等選任規程の改正承認の件 10. 学術情報部委員会業務に関する規程の廃止承認の件 11. 宮城学院女子大学研究紀要に関する規程の改正承認の件 12. 宮城学院女子大学図書館管理規程及び宮城学院女子大学図書館資料除籍細則の改正承認の件

	<ul style="list-style-type: none"> <li>13. 宮城学院女子大学学生相談・特別支援センター規程の改正承認の件</li> <li>14. 同窓会館北東側擁壁破損部改修工事の契約承認の件</li> </ul>
3月10日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 2026年度中高スクールカウンセラーの契約更改承認の件</li> <li>2. 宮城学院女子大学ジェンダー教育研究センター顧問の契約更改承認の件</li> <li>3. 大学みつばち共同事業・アドバイザー(顧問)の契約更改承認の件</li> <li>4. 宮城学院女子大学学生相談・特別支援センター規程の改正承認の件(継続)</li> <li>5. 編入学生の履修に関する内規の改正承認の件</li> <li>6. 2026年度大学役員等承認の件</li> <li>7. 2026年度音楽教室に係る授業料の金額改定承認の件</li> <li>8. 大学教職員組合及び事務関係職員組合への一時金回答承認の件</li> </ul>
3月17日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 専任事務職員の退職承認の件</li> <li>2. 2026年度中高数学科契約教員(常勤講師)の採用承認の件</li> <li>3. 2026年度大学特任・特命教員の契約更改承認の件</li> <li>4. 2025年度大学特任・特命教員の退職承認の件</li> <li>5. 2026年度大学教務嘱託職員の契約更改承認の件</li> <li>6. 2025年度中高契約満了非常勤講師承認の件</li> <li>7. 宗教主事の契約更改承認の件</li> <li>8. 内部監査室長(顧問)契約更改承認の件</li> <li>9. 2026年度こども園嘱託保育教諭(産休代替)の採用計画承認の件</li> <li>10. 2026年度こども園嘱託保育教諭(育休代替)の採用計画承認の件</li> <li>11. 宮城学院公益通報者保護規程の制定承認の件</li> <li>12. 宮城学院ガバナンス・コードの改訂承認の件</li> <li>13. 宮城学院女子大学学長連絡会議規程の改正承認の件</li> <li>14. 宮城学院女子大学司書課程運営委員会規程の改正承認の件</li> <li>15. 宮城学院女子大学学芸員課程運営委員会規程の改正承認の件</li> <li>16. 宮城学院女子大学学生寮規程の改正承認の件</li> <li>17. 宮城学院女子大学「性の多様性と人権」委員会規程の改正承認の件</li> <li>18. 2026年度学業特待奨学金(プールボー奨学金)に関する規程改正承認の件</li> </ul>
3月24日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 大学教員(一号特任教員)の退職承認の件</li> <li>2. 2026年度大学教務嘱託職員の採用承認の件</li> <li>3. 2026年度中高契約教員(常勤講師)の任用替え承認の件</li> <li>4. 宮城学院公益通報者保護規程の制定承認の件(継続)</li> <li>5. 施設等の学外貸与に関する規程の一部改正承認の件</li> <li>6. こども園保育室エアコン更新工事承認の件</li> </ul>
3月31日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 2026年度中高契約教員の契約更改並びに契約満了承認の件</li> <li>2. 2026年度4月事務局人事承認の件</li> </ul>

### (3) 評議員会の開催状況

開催年月日	議 題
2025(令和7)年 5月13日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 理事候補者について</li> <li>2. 寄附行為第34条第1項第3号及び第4号評議員の選任(評議員会選出)について</li> <li>3. 監事の選任について</li> </ul>

	4. 会計監査人の選任について
5月27日(火)	1. 2024年度事業報告について 2. 2024年度決算について
9月30日(火)	1. 次期学院長の選任了承の件
2026(令和8)年 1月27日(火)	1. 2025年度補正予算(案)了承の件
3月24日(火)	1. 寄附行為改訂了承の件 2. 理事候補者了承の件 3. 第6次中期計画(案)了承の件 4. 2026年度事業計画(案)了承の件 5. 2026年度予算(案)了承の件

## 2. 法人、大学、中学校高等学校及びこども園の主要な行事等

### (1) 法人(理事会・評議員会を除く)

年 月 日	行 事 等
2025(令和7年) 4月1日 21日 23日 23日	新任教職員辞令交付式・新任教職員研修 教職員健康相談 公認会計士監査 全学院教職員礼拝
5月14日～15日 16日 21日 26日	公認会計士監査 監事監査 全学院教職員礼拝 教職員健康相談
6月9日 18日 23日	公認会計士監査 全学院教職員礼拝 教職員健康相談
7月16日 28日	全学院教職員礼拝 教職員健康相談
8月12日～16日 18日 25日	一斉休暇 事務職員全体研修会 教職員健康相談
9月18日 29日	創立記念礼拝・永年勤続者表彰 教職員健康相談
10月2日、6日 15日 16日 27日～28日 27日	教職員健康診断 全学院教職員礼拝 全学院防災訓練 公認会計士監査 教職員健康相談
11月7日 17日 17日 19日	監事監査 クリスマス・イルミネーション点灯式 教職員健康相談 全学院教職員礼拝

年 月 日	行 事 等
12月8日～9日 6日 8日 23日 26日 27日～1月3日	公認会計士監査 クリスマスを祝う音楽会 教職員健康相談 宮城学院クリスマス礼拝 仕事納め 冬期休業
2026（令和8）年 1月5日 26日	仕事始め 全学院新年礼拝 教職員健康相談
2月16日 18日 27日	教職員健康相談 全学院教職員礼拝 監事監査
3月11日 23日 25日	東日本大震災記念礼拝 教職員健康相談 退職者辞令交付式 公認会計士監査

## （2）大学院・大学

年 月 日	行 事 等
2025（令和7）年 4月3日 4日 5日～8日 5日～8日 9日 9日 23日	さくら寮入寮式 入学式 健康診断 新入学生・編入学生・在学生ガイダンス 森のこども園入園式 前期授業開始日 学友会春季総会
5月23日 31日	新入生歓迎会 大学後援会総会
6月12日 22日	キリスト教教育特別集会 オープンキャンパス
7月27日 29日 30日～8月5日	オープンキャンパス 前期授業終了日 補講
8月6日～9月17日 6日～9日、18～20日 23日	夏季休業 連講 オープンキャンパス
9月13日 19日 24日	後期授業開始日 オープンキャンパス 9月期卒業生学位記授与式

年 月 日	行 事 等
10月10日～13日 11日～12日 18日 25日	大学祭（準備・後片付け含む） オープンキャンパス 大学院第1回入試 総合型選抜Ⅰ期
11月1日 19日 22日	総合型選抜Ⅰ期合格発表 学友会秋季総会 学校推薦型選抜・編入学・TOEIC編入学・特別入試、転学科試験
12月1日 13日 18日 18日 24日 26日～1月5日	学校推薦型選抜・編入学・TOEIC編入学・特別入試、転学科試験合格発表 総合型選抜Ⅱ期 クリスマス礼拝 総合型選抜Ⅱ期合格発表 年内授業終了日 冬季休業
2026（令和8）年 1月6日 17日～18日 27日 28日～2月3日	授業開始日 大学入学共通テスト 後期授業終了日 補講
2月3日 3日 4日～5日 6日～14日 13日 25日	春季休業 音楽科専門試験（一般選抜A日程・大学入学共通テスト利用選抜A日程） 一般選抜A日程（前期・後期）・大学入学共通テスト利用選抜A日程 連講 一般選抜A日程、大学入学共通テスト利用選抜A日程合格発表 大学院第2回入試
3月6日 10日 14日 17日 19日 22日 23日 24日	一般選抜B日程、音楽科専門試験（大学入学共通テスト利用選抜B日程）、特別入試 一般選抜B日程、音楽科専門試験（大学入学共通テスト利用選抜B日程）、特別入試合格発表 こども園修了式 卒業・修了礼拝、卒業パーティー 学位記授与式 オープンキャンパス 一般選抜C日程（欠員補充）、大学入学共通テスト利用選抜C日程※音楽科専門試験のみ 一般選抜C日程（欠員補充）、大学入学共通テスト利用選抜C日程合格発表

### (3) 中学校高等学校

年 月 日	行 事 等
2025（令和7）年 4月8日 17～18日 21日	始業式・入学式 高1オリエンテーションキャンプ イースター礼拝

年 月 日	行 事 等
26 日	PTA 総会
5 月 7 日 19 日 22～23 日 26～30 日	避難訓練 運動会 中 1 リトリートキャンプ キリスト教教育週間
6 月 11 日 20～25 日 24～25 日 25 日	ペンテコステ礼拝 高校前期中間試験 中学校前期中間試験 塾対象入試説明会
7 月 12 日 17 日 17～23 日 18～8 月 20 日 19～10 月 2 日 27 日 28～29 日	中学校オープンキャンパス I 終業 保護者面談 夏休み ターム留学 中学校オープンキャンパス I サマーキャンプ
8 月 2 日 21 日 29～30 日	高校オープンキャンパス I 始業 文化祭（校内発表・一般公開）
9 月 5 日 10 日 11～17 日 12～17 日 29～10 月 1 日	中学校創立記念行事 創立記念礼拝・講話 高校前期末試験 中学前期末試験 中 3 校外研修旅行
10 月 3 日 6 日 11 日 18 日 21 日 22 日 27～30 日 27～31 日 30 日	前期終業／全校集合記念撮影（新校舎棟建設予定地） 後期始業／芸術鑑賞会 中学校オープンキャンパス II 高校オープンキャンパス II 新校舎棟起工式 収穫感謝礼拝 高 2 校外研修旅行（沖縄／31 日休業） 高 2 校外研修旅行（台湾） 高 1 校外学習
11 月 5 日 5～7 日 7 日 8 日 12 日 15 日 25～28 日 25～27 日	宗教改革記念礼拝 PCS 来校 中学校合唱コンクール 中高入試対策講座 I 高校スポーツ大会 中高入試対策講座 II 高校後期中間試験 高校 2 年生学年閉鎖

年 月 日	行 事 等
26～28 日	中 3 後期中間試験
28～29 日	中 1・2 後期中間試験
12 月 6 日	クリスマスを祝う音楽会
19 日	中高クリスマス礼拝・終業
20 日～1 月 8 日	冬休み
2026 (令和 8) 年	
1 月 7 日	中学 I 期入試
8 日	中学入試合格発表
9 日	始業
13 日	高 3 終業
14 日	高校推薦入試
20～22 日	中 2 イングリッシュキャンプ
29 日	高校入試 A 日程
2 月 2 日	高校入試 B 日程
4 日	高校入試合格発表
14 日	新中 1 オリエンテーション I
24～27 日	高校学年末試験
25～27 日	全学年学年末試験
27 日	高 3 卒業礼拝
3 月 2 日	高校卒業式
5～12 日	海外研修
11 日	3.11 追悼礼拝
18 日	中学卒業式
19 日	終業式
24 日	新中 1 オリエンテーション II・新高 1 オリエンテーション
20～4 月 7 日	春休み

#### (4) 大学附属認定こども園「森のこども園」

年 月 日	行 事 等
2025 (令和 7) 年	
4 月 9 日	第 10 回入園式
10 日	第 1 学期始業式
25 日	イースター礼拝
5 月 8 日	親子遠足 (5 歳児)
13 日	親子ウォーキング・コイノニア (4 歳児)
15 日	親子ウォーキング・コイノニア (3 歳児)
22 日	内科健診
6 月 6 日	歯科検診
20 日	花の日礼拝
7 月 12 日～13 日	サマーキャンプ (5 歳児)
18 日	第 1 学期終業式
22 日～8 月 25 日	1 号認定児夏期休業

年 月 日	行 事 等
8月26日	第2学期始業式
9月5日 12日	森の音楽会 創立記念礼拝
10月1日 4日 10日 17日 18日 23日	2025年度募集要項配布開始 森のうんどうかい 遠足(3歳児) 遠足(4歳児) 新入1号児入園説明会 内科健診
11月1日 5日～8日 14日 19日	入園申込受付 森の芸術祭 収穫感謝礼拝 新入園児面接(1号児)
12月20日 22日～1月8日	クリスマス礼拝・第2学期終業式 1号認定児冬期休業
2025(令和7)年 1月9日 15日 27日 27日28日	第3学期始業式 新入園児オリエンテーション 森の音楽会 新入園児面接(2・3号)
2月21日	新入園児オリエンテーション(2・3号)
3月6日 11日 14日 18日 19日～4月7日	修了礼拝 おいわい会 修了式 第3学期終業式 1号認定春期休業

### 3. 補助金の状況

○私立大学等経常費補助金<日本私立学校振興・共済事業団> (令和7年度)

学校別	区 分	補助事業に要する経費 (円)	補助金額 (円)	
大学	専任教員等給与費	968,672,000	138,190,000	
	内 訳	ア. 専任教員等給与費	919,508,000	127,976,000
		イ. 私立大学退職金財団掛金	49,164,000	10,214,000
	専任職員等給与費	396,617,000	55,758,000	
	内 訳	ア. 専任職員給与費	374,510,000	51,341,000
		イ. 私立大学退職金財団掛金	22,107,000	4,417,000
	非常勤教員給与費	177,506,000	8,108,000	
	教職員福利厚生費	119,918,000	17,887,000	
	教育研究経常費	1,048,897,000	158,695,000	
	厚生補導費	28,660,000	2,489,000	
	研究旅費	17,674,000	1,562,000	
合 計		2,757,944,000	382,689,000	

○特別補助（経常費補助金）内訳表

項目	補助金額 (円)
I 成長力強化に貢献する質の高い教育	
地方の職を支える人材育成	840,000
被災地等の復興支援	0
数理・データサイエンス・AI教育の充実	0
DXによる教育の質的転換支援	0
II 社会人の組織的な受入れ	0
III 大学等の国際交流の基盤整備	0
IV 大学院等の機能の高度化	
大学院における研究の充実	1,709,000
V 東日本大震災からの復興支援	0
VI 私立大学等改革総合支援事業	
タイプ1 『Society5.0』の実現等に向けた特色ある教育の展開	0
タイプ2 特色ある高度な研究の展開	0
タイプ3 地域社会の発展への貢献	0
タイプ4 社会実装の推進	0
VII 少子化時代を支える新たな私立大学等の経営改革支援	
メニュー1 少子化時代をキラリと光る教育力で乗り越える、私立大学等戦略的経営改革支援	17,000,000
メニュー2 複数大学等の連携による機能の共同化・高度化を通じた経営改革支援	0
VIII 令和6年 能登半島地震、梅雨前線、9月豪雨からの復興支援	0
合計	19,549,000

○令和 7 事業年度授業料等減免費交付金

事業の内容	交付金額 (円)
大学等における修学の支援に関する法律による修学支援	514,478,600

○私立学校施設整備費補助金（私立学校教育研究装置等施設整備費（私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費））＜文部科学省＞（令和 7 年度）

事業の内容	補助対象事業経費 (円)	補助金額 (円)
講義館耐震改修工事（第三期）	107,470,000	53,735,000

○私立学校運営費補助金＜県補助＞（令和 7 年度）

	内訳				補助対象経費 (円)	補助金額 (円)
	人件費 (円)	経費 (円)	設備費 (円)	計 (円)		
高等学校	264,253,781	128,771,997	1,383,643	394,409,421	197,204,710	155,872,834
中学校	145,390,148	43,021,898	397,357	188,809,403	94,404,701	34,871,196
こども園	97,714,933	19,257,171	3,410	116,975,514	58,487,757	70,000
合計	507,358,862	191,051,066	1,784,410	700,194,338		190,814,030

○私立学校教育改革推進特別経費補助金＜県補助＞（令和 7 年度）

区分 学校別	補助対象経費		補助金額 (円)
	人件費 (円)	経費 (円)	
高等学校	264,253,781	128,771,997	1,050,000
中学校	145,390,148	43,021,898	600,000
合計	409,643,929	171,793,895	1,650,000

○仙台市私立学校振興補助金＜市補助＞（令和 7 年度）

区分 学校別	補助対象経費				補助金額 (円)
	図書購入費 (円)	教材教具 購入費 (円)	学校管理用 備品購入費 (円)	計 (円)	
高等学校	1,200,073	424,748	645,800	2,270,621	2,200,000
中学校	230,256	0	0	230,256	222,400

○子ども・子育て支援制度 教育・保育給付費＜在園児所在市町村補助＞（令和 7 年度）

事業の内容	補助金額 (円)
こども園の運営に係る補助	141,290,652

○認定こども園運営費補助金＜市補助＞（令和 7 年度）

事業の内容	補助対象経費 (円)	補助金額 (円)
こども園の運営に係る補助	1,301,706	1,300,000

○保育士等就労スタートアップ事業補助金＜市補助＞（令和 7 年度）

事業の内容	補助金額 (円)

保育施設等に従事する若手職員の処遇改善に係る補助	75,480
--------------------------	--------

○キャリアアップ研修参加支援助成金＜市補助＞（令和7年度）

事業の内容	補助金額（円）
キャリアアップ研修を受講する保育士等に係る補助	100,000

○私立保育所等助成＜市補助＞（令和7年度）

事業名称	補助金額（円）
栄養士・看護師雇用助成	274,800
増員保育士等助成	3,564,000
増員調理員助成	1,388,400
合計	5,227,200

○病原性大腸菌対策関連消耗品購入及び病原性大腸菌対策検便費助成＜市補助＞（令和7年度）

事業名称	補助対象経費（円）	補助金額（円）
病原性大腸菌対策関連消耗品購入助成	114,895	68,820
病原性大腸菌対策検便費助成		37,000
合計	114,895	105,820

○預かり保育（1号認定）＜市補助＞（令和7年度）

事業名称	補助金額（円）
預かり保育推進事業補助金	625,500
仙台市一時預かり事業（幼稚園型）補助金	1,337,750
合計	1,963,250

○延長保育事業費補助金（2号認定）＜市補助＞（令和7年度）

事業の内容	補助金額（円）
延長保育に係る補助	1,829,000

○要配慮園児支援事業費補助金＜県補助＞（令和7年度）

事業の内容	補助対象経費（円）	補助金額（円）
配慮を要する園児の支援に係る補助	2,594,400	196,000

○重度障害児等受入促進事業補助金＜市補助＞（令和7年度）

事業の内容	補助金額（円）
障害児等受入費用に係る補助（こども園）	69,000

○物価高騰対策事業＜市補助＞（令和7年度）

事業の内容	補助金額（円）
光熱費・食材料費に要した費用に係る補助（こども園）	1,228,140
光熱費等に要した費用に係る補助（児童クラブ）	44,000

○放課後児童健全育成事業補助金<市補助> (令和7年度)

事業の内容	補助対象経費 (円)	補助金額 (円)
宮城学院児童クラブ「森の家」	5,434,000	1,570,200

○放課後児童支援員等処遇改善事業費補助金<市補助> (令和7年度)

事業の内容	補助金額 (円)
放課後児童支援員等の処遇改善に係る補助	264,000

○結核定期健康診断補助金<市補助> (令和7年度)

学校別	事業の内容	補助金額 (円)
大学	結核定期健康診断に要する補助	588,720
高等学校	結核定期健康診断に要する補助	88,550

○私立高等学校等入学金軽減事業補助金<県補助> (令和7年度)

学校別	事業の内容	補助対象経費 (円)	補助金額 (円)
高等学校	入学金免除 (2名分)	100,000	100,000

○私立高等学校安全設備整備補助金<県補助>

学校別	事業の内容	補助対象経費 (円)	補助金額 (円)
高等学校	AED リース、生徒用防災備蓄品整備	257,565	128,000

○私立高等学校生徒支援体制整備事業費補助金<県補助>

学校別	事業の内容	補助対象経費 (円)	補助金額 (円)
高等学校	生徒支援体制の整備に係る補助	1,809,000	904,000

○私立学校原油価格高騰対策事業補助金<県補助>

学校別	事業の内容	補助対象経費 (円)	補助金額 (円)
高等学校	燃料費補助	3,070,000	3,070,000
中学校	燃料費補助	1,020,000	1,020,000

○研究助成 (令和7年度)

学校別	研究代表者	研究区分	補助金額 (円)
高等学校	鎌田隆史	科学教育振興助成金 (公益財団法人 中谷財団)	300,000
高等学校	鎌田隆史	第10回 COOP トリプルカード みやぎスマイル基金	100,000

○科学研究費助成事業<文部科学省・日本学術振興会補助> (令和7年度)

学校別	研究代表者	研究区分	補助金額 (円) (直接経費)	補助金額 (円) (間接経費)
大 学	市野澤 潤平	基盤研究(B) 継続	1,150,000	345,000
	鈴木 雅之	基盤研究(C) 継続	900,000	270,000
	伊藤 哲章	基盤研究(C) 継続	500,000	150,000
	長谷部 弘	基盤研究(C) 継続	1,000,000	300,000
	緑川 早苗	基盤研究(C) 継続	500,000	150,000
	高橋 陽一	基盤研究(C) 継続	800,000	240,000
	板橋 夏樹	基盤研究(C) 継続	200,000	60,000
	堀田 智子	若手研究 継続	400,000	120,000
	大谷 尚之	基盤研究(C) 継続	800,000	240,000
	木口 寛久	基盤研究(C) 継続	300,000	90,000
	大久保 尚子	基盤研究(C) 継続	400,000	120,000
	林 瑞紀	研究活動スタート支援 継続	400,000	120,000
	友野 聡子	若手研究 継続	300,000	90,000
	酒井 祐輔	若手研究 継続	1,000,000	300,000
	西浦 和樹	基盤研究(B) 新規	3,050,000	915,000
	及川 規	基盤研究(C) 新規	700,000	210,000
	堀田 智子	基盤研究(C) 新規	570,000	171,000
	瀧澤 純	若手研究 新規	1,200,000	360,000
	青木 拓巳	若手研究 新規	1,500,000	450,000
	戸野塚 厚子	基盤研究(C) 新規	1,000,000	300,000
石田 依子	基盤研究(C) 継続	1,300,000	390,000	
		合計	17,970,000	5,391,000

#### 4. 入学志願者、合格者、入学者数

(2025年4月1日現在)

			入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	
大 学 院	修 士 課 程	人文科学研究科	英語・英米文学専攻	4	3	2	2
			日本語・日本文学専攻	4	0	0	0
			人間文化学専攻	4	0	0	0
			生活文化デザイン学専攻	4	0	0	0
	健康栄養学研究科	健康栄養学専攻	4	3	3	3	
大学院合計			20	6	5	5	

			入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
大 学	現代ビジネス学部	現代ビジネス学科	95	254	244	104
	教育学部	教育学科幼児教育専攻	90	127	126	69
		教育学科児童教育専攻	50	143	141	40
		教育学科健康教育専攻	50	105	100	54
	生活科学部	食品栄養学科	100	180	161	109
		生活文化デザイン学科	60	106	102	28
	学芸学部	日本文学科	100	184	180	87
		英文学科	70	98	95	42
		人間文化学科	35	103	102	33
		心理行動科学科	80	206	167	90
		音楽科	20	20	19	14
大学合計			750	1,526	1,437	670
3年次編入学			—	14	12	10

		入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
高等学校		260	271	265	105
中学校		160	44	38	30

※「5. 学部・学科等の入学定員、学生・生徒・園児数」(4ページ)の1年生の数は在籍者数(休学者・留年者・留学者・再入学者等を含む数)となっており、本データの入学者数と同数ではない。

#### 5. 寮生数

(2025年5月1日現在)

さくら寮	大学 159名
------	---------

## 6. 2025 年度就職内定状況

(2026 年 5 月 1 日現在)

学 部	学 科	卒業 学生数 (A)	求職者数 (B)	就職 内定者数 (C)	内定率 (C) / (B)
現代ビジネス学部	現代ビジネス学科	101	95	94	98.9%
教育学部	教育学科 幼児教育専攻	99	96	96	100%
	教育学科 児童教育専攻	58	54	54	100%
	教育学科 健康教育専攻	41	40	39	97.5%
生活科学部	食品栄養学科	102	92	92	100%
	生活文化デザイン学科	53	48	48	100%
学芸学部	日本文学科	90	81	81	100%
	英文学科	56	53	53	100%
	人間文化学科	50	38	38	100%
	心理行動科学科	73	71	71	100%
	音楽科	12	7	7	100%
	合計	735	676	674	99.7%

## 事業報告書附属明細書

2025 年度事業報告には、「私立学校法施行規則」第 29 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告書の内容を補足する重要な事項」に該当の事項はありません。

2026 年 3 月

学校法人宮城学院